



特 254

634



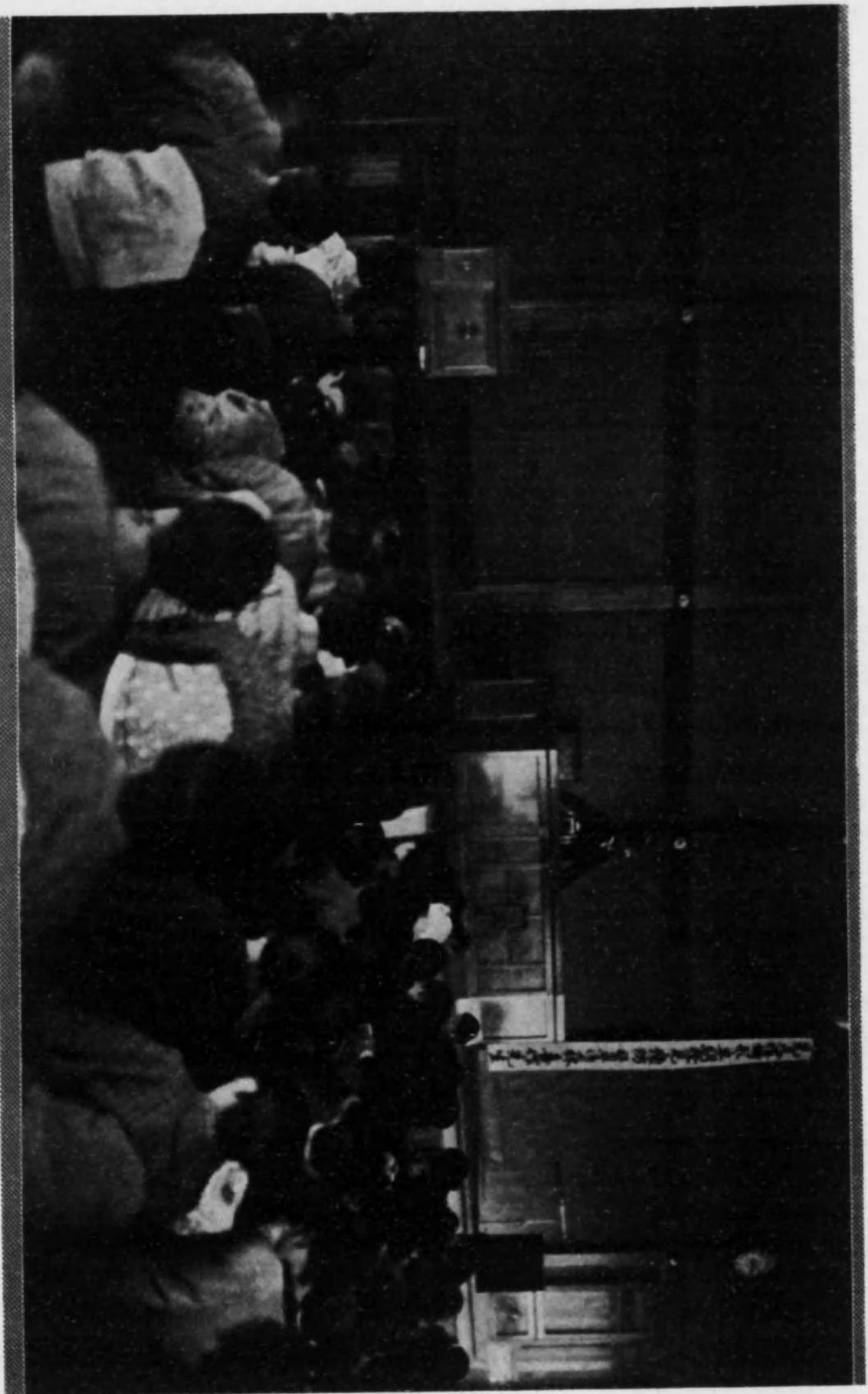
於昭和會館

# 乳幼兒保護指導講演集

京都府產婆會

# 始





（演講御生先在嘉林 日七十二月九年一十和昭） 場々會演講導指護保兒幼乳



昭和十一年十月

乳幼児保護指導講演集

京都府産婆會



特 254  
634



## 卷 頭 之 辭

宣言 吾人は國家の現状に鑑み益々協心戮力母性及乳幼児の保護指導の徹底に努力し以て社會衛生上に貢獻せん事を期す。

昭和十一年五月十日京都府産婆會が主催として京都帝國大學大ホールに於て大日本産婆會第九回大會開催の際全國六萬の會員の聲として擧げたる宣言であります。私共産婆業者が業權確立を叫ぶ一方夫れに伴ふ重大なる責任を忘れてはなりません。今や社會の世相に鑑みて私共産婆業者は徹底的に此宣言を實行せねばならぬ機運に即してをりますが如何に志はありましても其實力が伴はねば實を結ぶ事は至難であります。今回其宣言を實行に移すべき一階段として斯界の權威者たる先生を願ひ指導を仰ぐべく三日間に涉つて、講演講習會を開催する事となりました。御多忙なる先生方が貴重なる時間を割き御來講下さいました事は一同深く感謝する次第で御座います。又會員諸姉も市内近郡はもとより奥丹の遠きに至る迄多數熱心に來聴せられ歸郷せられたる後來會せられざりし人々の爲め講師の派遣を申越されるほどの熱心さであります。また各府縣に於ても時を同じくして續々と此種の催しのある事をき、如何に同業諸姉の向上心が燃えつゝあるかを思ふて欣びに耐えざる次第であります。小にしては一市一郡大にしては全國同業姉妹が一糸亂れぬ統制の下に團結し内に養ひ外に向て邁進し母性と乳幼児の保護指導に務め社會衛生上に一大貢獻の實を擧ぐる時に期せずして我業權は確保せられ叫ばずして産婆法案は通過せらるゝ事と信じます。

三日間の講演、時間的には至て短かく受くる處の量又多しと云へませぬが、諸姉の熱心なる體得に依てよく我ものとし實行に移さるゝ事を得ば幸甚と存じます一言以て御挨拶と致します。

## 幼乳兒保護指導講演會に臨みて

京都府産婆會顧問  
京都府衛生課長

醫學博士 藤田茂尙

本日過般全國產婆大會に於て、宣言決議せられました、母性及乳幼児保護の重要な社會衛生事業に對する第一着手として、此の有意義なる講習會を御開催になり恰度折悪き雨天にも不拘、遠近かくも多數の會員の方々が御出席になりました狀況を拜見致しますことは、私の衷心欣快に堪へざる所であります。

申すまでも無い事ではありますが、一つの團體が、殊に公然と組織せられ世に名乗りを上げました時には、此の團體は一個の人格を持つのでありまして、其の活動振りが社會の爲になる、つまり言葉替へて申しますと、社會の人々から難有がられたり、感心せられたり致しますると其團體を構成して居る個人個人まで、尊敬を受けるのでありまして、今日堂々たる團體となつて居る產婆會が社會の爲めに良き活動をなし、衆目衆耳に觸れますれば勢ひ個々の產婆さんが世の人々から立派に見えます。所が反對に、個々ののは、間違ひの無いことではありません。自然尊敬せられる產婆さんが悪い事、薄情な事を致しますと、產婆會の權威がなくなり、會として如何に良き行動をなしても、其價値を損ぜられるのであります。

そこで、會として大いに世の爲めに、活動すると共に、一層個々の會員の行動に、充分の注意が必要となるのであります。

產婆さんは、其の業務の性質から他人の家庭の内情を知り従て、其相談相手にされる場合が多い譯でありまして、此の場合良からぬ事の相談に、乗つたり、或は良からぬ方策を樹て、やつたり、或は其の實行に移したと云ふ様な場合におきまして、世間から彼此批判されます。唯、一人二人の悪い者があると云ふので、それが爲に全體の產婆さんと云ふ者の値打を輕んじ、支障を來す譯でありますから、此の點は、特に皆さんが連帶責任をお持ちになるのでありますから、一人でもそう云ふ不都合な者が無い様に、相誠めて頂きたいのであります。墮胎の罪と云ふものが中々多いのであります。で、これが法律上の問題になつて、處罰を受ける、こう云ふ者は今でも相當にありますが、法律上の問題になら無い者が、なる者よりも遙に澤山あります。これは屢々見聞する所であります。何故にそう云ふ事が起るかと思ひますと、誰もそう云ふ事をやるのは、よく無いと云ふ事を充分に知つて居るのでありますけれども、色々

泣きつかれまして段々事情を明されますと云ふと、氣の毒になつて、つい同情の結果犯罪を犯します。懲にからんでやる人もありますが、多くは、あの人がと思ふ人がその事を致しますのは、何れも妊婦の色々訴へます所の事情に、同情の結果そう云ふ事が行はれると云ふ次第であります。

これは考へますと誠に、そう云ふ様な事情に同情してやつた者が多いのであります。情状を酌量すると云ふ問題が多いのであります。然しこれは結局、目先の愛情にとらはれまして、本當の愛情を忘れた結果になるので、こう云ふ事では不可なのであります。子供を育てる上に於きましても、目先の愛情で行ふ者は、大きな愛情から見ましたならば、非常に間違つた行ひが多いのであります。こう云ふ點は、殊に色々生理的に感情がたかい、又生理的に男に較べまして同情心の強い皆さん御同業に置きましては、特に相誠めまして、如何なる事情がありましたも、大きな國家と云ふ所から考へまして、本當に正しい愛情によつて行動し、決して小さい愛情にとらはれて間違つた行動をせないと云ふ事に、深く思ひを致され度いと思ふのであります。話が横道になつてしまひましたが、これより本筋に入りま

ればならぬと云ふ事が叫ばれて居ります。今日各方面に於て、保健問題と云ふ事が喧しく云はれて来たのであります。が、こう云ふ風な時期に於きまして、殊に皆さんの御職分皆さんの將來の御活動と云ふ事が、國家から期待されて居る譯であります。結局は乳幼児の時代から、それ等の健康の、保持増進と云ふ事を計らなければならぬし、遅ればこれを生み出す所の母胎の健康の保持、増進と云ふ事に就いて、心配せなければならぬのであります。こう云ふ仕事は色々口に致しましても、實際の効果を挙げまする爲にはどうしても皆さんの御活動によらなければなりません。今回、殊にそう云ふ事に御盡力になると云ふ事を前提と致しまして、講習會を御開催になり、最も現状から見て必要な、先天性微毒の問題とか、先天性畸形、或は乳幼児保護、實際の指導上の問題に就いて、講習を受けられます事は、非常に意義ある事と、深く喜んで居る次第であります。が、京都の現状から見まして、私の特に皆さんに、御協力、御盡力の願ひ度い事は、微毒と結核豫防の問題であります。微毒の問題は、先般新聞等でも御承知の様に、徴兵検査の成績から見ますと、京都が全国的に一番花柳病患者が多

す。今日、乳幼児の死亡が非常に高いのみならず、先頃廣田内閣が成立致しまして以來、色々庶政一新の聲が高くなりまして、國家の現状、外國との關係と云ふ様な事を、考慮に入れまして、色々庶政一新をしなければならぬ、これが爲には國策を立て直すと云ふ様な見地から致しまして、内閣に於きましても、各大臣が夫々御苦心になつて居るのであります。此の時にあたりまして、皆さん御承知の様に、陸軍大臣が累年の徴兵検査の成績を參酌されました。

これによりますと近年になつて、段々壯丁の體格が劣弱になつて居るのであります。今から十年、十五年前に於きましては、内閣の體格、即ち體格の劣弱者が、千人の内二百人乃至二百五十人位でありました。それが段々近年に進むにつれて體格が悪くなりまして、昭和二年から七年頃になると、三百五十人に殖えました。所が昨年の徴兵検査に於きましては、それが千人の中四百人に殖えて來ました。こう云ふ譯で壯丁の四割が最も劣弱なる體格の持主でありましてこれが年々悪くなつて行く傾向であります。こう云ふ事では、將來國防の上に於て、産業の上に於て、由々しい問題であるからして、此の際國民保健の國策を立てなけ

い事になつて居ります。然もそれは昭和七年から全國一でありました。八年九年十年と進むにつれて段々壯丁の花柳病患者が殖えて居るので、何時も何時も日本一で段々殖えて行く、こう云ふ様な状態であります。割合純眞でなければならぬ青年壯丁の花柳病にか、つてゐる者が非常に多い。獨り壯丁ばかりで無くそれ以上の年齢の者、そう云ふ還境の者に職業の如何を問はず、廣く花柳病が蔓延して居ると云ふ様に察せられるのであります。微毒の如きものはこれより御聞きになります通り、本人のみならずこれを子孫に傳へるのであります。こう云ふ病氣が擴がりますと國民の元氣を消沈させ萎靡させてしまふと云ふ様な事になつて、國家の前途から見て由々しい問題であります。そこで私共の方でも色々の方面の仕事に携つて居ります方々に集つて頂いて、花柳病豫防調査會を組織致しまして花柳病豫防の對策を立てたのであります。が、年々府下に置きましては四萬二千人前後の子供が生れて參ります。これ等を生み出す所の母胎について考慮を拂はなければなりません。又そう云ふ生産以外の死産と云ふ者が年々二千五百人前後あるのであります。此の死産の問題は微毒と非常な關係が

あります。又死産として既に届け出られる以前に於て流産と云ふ様なものも、主としてこの微毒に原因を發するのでありますから、皆さんが母性及び乳幼児の保護事業に御盡力下さる上に於ては、京都の現状から見まして花柳病の豫防と云ふ事に御力添へを御願ひし度いと思ひます。花柳病があるか無いかと云ふ事は、ワツセルマンの血清反應によりまして知る事が出する譯でありますから、旁々又何かの場合に必要上、血液型の試験と云ふ様な事に合せまして、皆さん方がお扱ひになる妊婦の居ります家等についても、本人は勿論出来るならばその配偶であります所の夫の血液検査と云ふ様なものも、適當の機會にお勧めになつて、ワツセルマン反應又これに合せて血球、血型の試験と云ふ事を行はれる様に仕むけて頂き度いと思ひます。

尙花柳病豫防の問題と合せて、京都の現状から見て必要なのは、結核豫防の問題であります。此の結核は全國で他所の國に比べて多いのでありますが、其中でも京都の結核が一番目立つて居ります。一番とは申しませんが、第二番目の目立ちであります。人口一萬につきまして現在幾らかは減つて居りますが、未だ十九人と云ふ者が結核で死んで居

ます。人口が一萬人ありますと其處では年々十九人の結核の死亡者があります。これは全國の各府縣平均であります。遺憾ながら我が京都は二十五人餘りと云ふ事になつて居ります。石川縣が一番結核の死亡者が多くありまして三十人二分と云ふ事になつて居ります。これは昭和九年の統計であります。然るに京都は二十五人六分六厘の結核死亡者を昭和九年に出して居ります。石川についての結核の全國で一番多い所でもあります。死ぬる者がありますと云ふと患者は少くともその十倍以上あるものであると云ふ事が唱へられて居ります。そう云ふ事から見ますと、人口一萬に對して少くとも何時も二百五、六拾人の結核患者が現在居ると云ふ計算になるのであります。然もこいつは傳染病でありますから段々方々に傳染すると云ふ恐れがあります。こう云ふ京都の現状から思ひますと、どうしても結核豫防と云ふ事に努力しなければならぬのであります。これが效を奏しますれば、やがて乳幼児或は壯丁と云ふ様な方面によい結果を表す譯であります。どうかこう云ふ方面について御心配願ひ度いのでありますが、それには色々な問題があります。住宅の改善であるとか、或は適當な運動の奨

勵でありますとか、一番痛切に必要な問題は榮養の改善と云ふ事です。こう云ふ住宅の改善と云ふ様な事は、これは完全に改善する事は容易な事ではありませんけれども、結核豫防の見地からいくらかでもよくすると云ふ事は、特別費用を要しないで出来ると思ひます。例へば窓の少い所は窓を取りつける、光線の少い所には天窗を作ると云ふ様な事はたいして金のかゝる事ではありません。或は又日本でありますと部屋に空氣の流通をよくする爲に欄間を明けて寝ると云ふ様な事を指導する事によつて相當効果があるらうと思ひます。榮養の改善については傳統的に京の着倒れと申しまして、京都の人は着物には非常に贅澤では済みませんが、反對に食物は非常に粗末であります。こう云ふ習慣になつて居ると云ふ譯で、これは強ち昔の話では無く現在に於ても尙そう云ふ傾向が多分にあります。そう云ふ現状から考へましても、榮養の改善と云ふ事は非常に必要であります。これによつて相當の効果が擧げられると思ひます。先達てそう云ふ話しによつて色々實際の状況を聞いて見ますと、或る階級に於ては今でも誠に粗末な榮養であります。お茶漬けをさらさらとかきこむ、鹽辛い

昆布の佃煮二、三切で、始めの一膳は御飯の上のせお茶をかけて、其の鹽だしでさらさらと食べる、昆布は食べ残して於て、二膳目の時に始めて食べる、三膳四膳の御飯を食べるのに三切の昆布があればよいと云ふ、これで經濟だと云ふ話を聞いて驚いた様な譯であります。先般府廳で工場の女工の結核を對象とした、精細なる健康診断をやつて見たのでありますが、五百六十何人かの女工さん達、然も皆二十歳前後の若い人達でこれから家庭の主婦となつて子供を生もうと云ふ人達であります。此の女工さん達の健康診断を、唯聽診や打診の一般方法のみならず、血液を取りまして血球の沈降速度を計つたり、レントゲンを用ひまして胸を透視して寫真をとると云ふ様な方法を合せ行つたのでありますが、それによりますと私共が想像してゐる以外に多數の結核患者がありました。其の中の約一割と云ふ者は、今直に仕事を休んで休養せなければならぬ者であります。それについて他の二割位の者はこれに準ずる程度の者と云ふ様な成績であります。又食事等の具合を調べて見ると偏食である。只一方に偏して居るのであります。動物性の食品が足りないで、榮養上非常な缺陷があると云ふ事

がわかりました。工場の事でもありますから即座に栄養改善を命じました。これによつて格別に費用が殖えた譯ではありません。極めて経済的に栄養改善の趣旨で、一定の献立を栄養價の上から作りまして、それによつて食事の改善をやつて見たのでありますが、その結果纔か五十日間の経過に置きまして誠に、成績を収めて居る、そう云ふ譯でありますから、栄養改善と云ふ様な事柄は、殊に京都は昔から此の傳統であります所の食事の上に更に考慮を拂つて居らん者が多いと云ふ此の地方に置きましては、結核豫防の上から食事を改善し、國民健康増進の上から特に力を入れなければならぬ問題であるとひます。こう云ふ問題も皆さんのお力によりまして、効果を収め得る點が最も多いと思ひますから、どうか母性及乳幼児保護の指導の上に、これより乗り出さんとなさる皆さん方に對し、特にこう云ふ方面について御盡力をお願いし度いと思ふのであります。段々皆さんもお集りになつてこられましたし、先生も既にお控へになつて居りますから、私は以上の希望を述べて御挨拶致す次第であります。



## 遺傳黴毒に就て

醫學博士 田代勉三



## 遺傳微毒に就て

緒言 胎毒の話	二一
一、原因及起因	二二
二、遺傳微毒 感染経路	二三
1、受胎前	二三
2、受胎後	二三
三、乳兒微毒の症状	二三
四、運發性微毒	二五
五、診 断	二五
六、乳兒に見らるゝ皮膚病並其手當	二六
七、結辭 胎毒内攻の話	二三

## 一、緒 言

只今から始めます。始めに御断りしておかねばならないのは、私は誠に喋る事が下手なんです。それに二三日前から、風邪を引いて居りますので、充分に準備が出来ませんでしたから、内容の點に就きましても、皆さんに御満足を與へる事が出来ないだらうと思ふのであります。それからもう一ツ演題の内容に就きまして、此の微毒の事だけでありますすと、皆さんが診断をつけるといふ事も一寸出来にくしいし、實際の治療をするといふ事も醫者に任さなければなりませんので、今日は先天微毒と、乳兒に見られる皮膚病の二、三尙その手當の事に就いて申し上げ度いと思ふのであります。

## 胎毒の話

何故こゝにいふ様な内容にしましたかと申しますと、乳兒に色んな發疹が出来た場合に、よくお母さんからこれは胎毒が出たのではないかといふ質問を受けます。それからその皮膚病を治した場合に、これが内攻しやせんかといふ質問を受けます。これは皆さんもよく御経験の事であると思

ひますが、私共も始終こゝにいふ質問に惱まされて居るのであります。それで考へて見ますと、胎毒といふものは恐らく胎兒がお母さんの何かの毒を受けて生れた場合に、皮膚に何か發疹が出来る、こゝにいふ意味なんだらうと思ふのであります。然し多くの皮膚病におきましては遺傳といふ事は考へられない、それから考へて見ますといふと、胎毒といふのは、つまり微毒といふ意味なのでは無いかと思ふのであります。胎毒の定義は漠然として誠にかみ所がありません。今日の科學(サイエンス)といふものから觀まするといふと、胎毒といふものに含まれてゐる病氣は、微毒は勿論そうでありますし、其の外色んな濕疹(くさ)、膿痂疹(とびひ)其他「あせも」とか「たゞれ」とか色んなものを含んでゐる様に思ふのであります。俗に胎毒といつて居る言葉には學問的にいふと餘程誤解がある、迷信が入つて居るのぢや無いかと思ふのであります。そゝにいふ様な意味からしまして、今日は胎毒といふ様な事に就いて申し上げ度いと思ふのであります。つまり遺傳微毒並にそれに類した皮膚病の事に就いて申し上げます。一寸それだけの事を御断りしておきます。

## 原因及起因

次に原因及起因に就いて申し上げます。梅毒の原因は御承知の通り、「スピロヘータ・パリダ」といふ細菌によりまして起る、慢性の傳染性の疾患であります。この細菌はシヤウディン(F. Schaudinn) ホフマン(F. Hofmann)の二人の方によりまして、千九百五年に発見されました。ホフマンといふ人は、七、八年前に京都にもおいでになつて、私共は接待役を仰せつかつて御案内した事がある、非常に有名な方です。此の二人の方によつて発見された細菌によつて傳染するのであります。その傳染はほかの所謂法定傳染病と違ひまして、人間の接觸によりまして、人間の交接によりまして、次から次へと傳つて行くのであります。それから起因といふよりは寧ろ起原といつた方がいゝかも知れませんが、梅毒の起りにつきましては、色んな説があります。大古から、梅毒といふものはあつたものであるといふ説を持つて居る方もありますが、コロンブスが「アメリカ」を発見しましてから「アメリカ」から「ヨーロッパ」に輸入しまして、それから「ポルトガル」人なんか喜望峯を廻りまして、印度や支那に來る様になつてからだん／＼東

ら梅毒をもつて居つて、それがお母さんに早く移つた場合或はお父さんには無いけれども、お母さんに早くからあつた場合等が考へられます。それが受胎前の事です。

### 2、受胎後

それからもう一ツは、お母さんの體に子供が宿つてからお母さんが梅毒になつた場合、さういふ時にやはり遺傳梅毒の子供が生れるのであります。普通はさういふ場合が多いのであります。受胎後と申ししてもこれには色んな場合が考へられます。第一番に受胎後間もなくお母さんが梅毒に侵される場合、それからもう分婉近くなつてからお母さんが梅毒に侵される場合、それから愈々月盛ちまして出産する場合、産道に梅毒がありまして梅毒にかゝる事もあります。或は生れてしまつてから、乳母の乳とか、或はお母さんの乳から移る場合等が考へられるのであります。産後の場合乳と申しましたが、乳そのものでなくて、實際は乳房からうつる場合が多いのであります。それで此の受胎後間もなく、お母さんが梅毒に侵されますと、その場合には胎兒に早くから梅毒が感染しますので、従つて死産をしたり、或は流産をしたりする事が多いのであります。或は

洋に傳播する様になつたといふ説があります。一般には後者の説が信じられて居ます。日本に入つたのは、四、五百年前です。始めは長崎邊に入つて、だん／＼東に進んで、現在では北海道の「アイヌ」迄、澤山に侵されて居ます。

## 一、遺傳梅毒

遺傳梅毒は先天梅毒共に同じ事です。此の遺傳梅毒と申しますのは、胎兒が母の梅毒を受けて生れる場合を云ふのでありますが、實際はこれは本當の遺傳ではありません。これは一種の傳染と見る方が至當であります。多くの場合、お母さんの胎盤を通して、梅毒の細菌がお母さんから子供に移行する、そしてその胎兒が梅毒になつて生れて來る、さういふのが本當であります。

### 感 染 経 路

#### 1、受胎前

感染の経路は色んな場合が考へられますが、先づ第一に考へられるのは、受胎前にお母さんが既に梅毒に侵されて居る場合があります。例をあげますと、お父さんが早くか

又、生れても何處かに梅毒の痕跡をもつて生れて來ます。さういふ様な胎兒の梅毒に於きましては、變化は單に皮膚ばかりでは無く、内臟諸器官にも色んな變化が起つて來ます。それから主に腕とか脛とかの長い管になつた骨の端の方が肥厚したり、それを非常に痛がつたりする様な事が多いのであります。内臟では肝臟に「スピロヘータ・パリダ」が繁殖して居るので、肝臟の肥大を來す事が多いのであります。それから脾臟にも「スピロヘータ・パリダ」によりましてかなり強い變化が見られます。その外、殆ど總ての器官に多少とも侵入して病氣を起します。

## 三、乳兒梅毒の症狀

分婉近くなつてから、お母さんが梅毒に感染した場合、それは乳幼兒梅毒となつて表れるのであります。つまりお産は稍々普通の経過をとりまします。即ちお母さんのお腹に約十ヶ月は居るのであります。お産も割合軽く済み、出來た赤ちやんは一見健康の様に見えるのであります。然しさういふ場合には、生れてから早いのは四、五日、遅いのは四、五ヶ月の間に、梅毒の症狀が表れて來るのであります。

ます。此の症状は人工營養の場合にはかなりきつ、つまり西洋人なんかの、「ミルク」を使つて居る者にはひどく表れます。母乳營養の日本人なんかに於きましては、症状も軽い割合遅くなる事が多いのであります。こゝいふ微毒乳兒におきましては、大體から申しますと、發育が思はしくありません。日がたつて行く割合に體の營養がよくなつて来ない、それから何となく萎びた様な感じがします。皮膚に皺が多くて、又穢い色素の沈着があつたりします。一寸見ると年寄りの顔を見る様な顔貌を呈し、その割合にお腹だけは大きく脹れてゐる、皮膚の症状としましては、色んな恰好の發疹が出て來ます。一番普通に見られますのは、丘疹でありまして、丁度土手の様になつて表れて來るのがあります。それはよく頭や口の周圍、それから鼻腔、肛門或は臀部、そゝいふ所に表れるのであります。その丘疹は時によると、扁平な形になつて出る事もあります。一寸暗いから見えにくいですが、此處にある標本なんか扁平な丘疹であります。それが頭に來た場合には、よく肥漏性の濕疹の様な恰好をして表れます。それが肛門の圍りにまゐりますと、股のたゞれとよく似て居ります。その外發疹には

水疱或は膿をもつて來る場合もあります。又鼻腔に來た場合には單に鼻の粘膜だけを侵す事もありますが、ひどく來た場合には、鼻の眞中にある軟骨を侵しまして、所謂「ザツテルナーゼ」(鞍鼻と云ひますが)鞍を置いた様な鼻になります。それは前の方から見ますと、鼻の穴がよく見えませんが横から見ると削り取つた様な鼻になります。そゝいふ子供ですと聲が明瞭に生まれません、鼻にかゝつた「フガノク」(フガノク)と云ふ様な聲を出します。其の外、第三期の症状も一緒にやつて來る事があります。今迄に云ひましたのは、第二期の症状であります。第三期の症状が一緒にやつて來る場合は、筋肉に護膜腫の様な變化が起つて來ます。胸骨と鎖骨それから後頭骨の間の筋肉がよく腫れて非常に痛がり、頭を曲げる事が出來ません。それから骨に參りますと、これは先程申しました様に、長い骨の骨端に近い所で骨が肥厚して參ります。其の外内臓にも随分色んな變化が表れて來ます、やはり肝臓に一番ひどく表れる様に思はれます。こゝいふ様な色んな症状が來るのであります。けれども、母乳營養の日本人に於きましては、遺傳微毒の症状は割合に軽いし、その後後も軽くすむ事が多いのであります。然し

中には随分ひどいのがあります。素人目にも、あの娘さんは遺傳微毒だと云ふ事に氣がつく事があります。それは鼻の脹れてゐる方、或は癩痕の跡があつたりする様な方であります。然し一般に云ひますと、日本人は症状が輕うございます。

#### 四、遲發性微毒

其の外に此處の表の第四番に書いてあります、遲發性微毒といふのがあります。これは生れた當時並に其の後、割合に微毒の變化がなくて、七八才頃より娘さん時代になつて、始めて微毒の症状が表れて來るのであります。こゝいふ方には所謂ハッチンソンの三症状なるものがあります。その一ツの症状として角膜の深層が侵され、眼がどんよりして薄見えになつて來る事が多いのであります。それから齒がやられます。殊に門齒が普通の恰好をして居ないで丁度ビール樽の様な恰好をして居ります。即先に行つて細くなつて、眞中が膨れてゐると云ふ様な恰好になる又齒と齒の間が大變すいてばら／＼になつて居り、齒全體の發育はよくありません。それから耳の聴えが悪いです。始終耳が

重聽(遅ぎき)だといふ様な人が多いのであります。其の外に、口の圍りによく癩痕性の筋が入る事があります。其の他、遲發性微毒の患者は一般に智慧のつき方が遅いです。どちらかと云ふと、多少のゝまだと云ふ感じを抱かせる人が多いのであります。學校へ上がりまして、成績は劣等とか、或は中以下と云ふ様な所であります。遺傳微毒から來ましたものには、大體こゝいふ症状があるのであります。

#### 五、診斷

それではどうしたら、遺傳微毒だと云ふ診斷がつかますかと申しますと、これはかなりむづかしい問題であります。何故かと申しますと、乳兒には先程申し上げました様な色んな皮膚病がありまして、その皮膚病の鑑別が非常にむづかしいのであります。私はつい二、三年前でありましたが或家庭の赤ちやんを見せられました所が、腹に發疹がありました。どう見ても、遺傳微毒の發疹と見わけがつかない發疹で觸つて見ると、皮膚病に較べて固さがありますので私は微毒だと思つて、此の事をそれと無くその家庭の方に

申し上げました所が、以ての外である。そういふ事は絶対に無いと仰いましたので、皮膚病の治療をして居りました所が、四、五日するとどん／＼よくなつて、僅か十日で癒つてしまひました。そう云ふ様に、皮膚病との鑑別が非常にむづかしいのであります。特に見慣れて居ない方ですと、うっかり梅毒だと云ふ診断を下すのは非常に危険であります。そう云ふ事を申しますと色々な差障りが出来ますからうっかり診断は出来ないであります。皆さんの一番注意しなければならぬ點は、流産、早産、或は死産等の習慣性のあるお母さんであります。こゝにいふ人に大抵梅毒があります。これは十中八人迄、そうだと思つて間違ひありません。これが一番簡単な目安で無いかと思ひます。それから生れた赤ちゃんの顔を、よく見る事であります。健康な赤ちゃんですと艶々して、元氣のよいものであります。が、梅毒の子供ですと、艶が悪くてなんとなしに子供らしくありません。それからこれは専門にわたりますけれども、肝臓と脾臓が大きくなります。従つて、お腹が外の割合にボンと脹れて居るのであります。お腹だけボンと出て、そして脾臓部に硬結が觸れるといふ場合、これはかなり疑はし

いものであります。その外鼻加多兒のある場合には遺傳梅毒が多いのであります。然し何と云つても確なのは血液の検査であります。梅毒によりましては、血液反應が陽性に出ない場合も多少ありますが、遺傳梅毒の場合には、百發百中ワッセルマン反應に陽性が出ます。これは直接手を下す事が出来ない場合には、お医者さんに依頼してやつて貰ふのが一番確であります。これの診断には、皆さんと致しまして、流産や早産の多いと云ふ事、それから顔の様子に氣をつける事、それから色々な發疹や、鼻加答兒があるかどうか、それからお腹が脹れてゐないかといふ様な事に氣をつけて、もしさういふ症狀が、割合に備はつて居りましたならば、それとなしに血液の検査をして貰つたらいいと思ふのであります。遺傳梅毒の事は大體それ位に致しておきます。

## 六、乳兒に見られる皮膚病並其手當

次に、乳兒によく見られる皮膚病並にその手當について申し上げます。乳兒は皮膚の弱いせいもありませうし、又新陳代謝が非常に烈しいといふ點もありますので、皮膚病

に侵されやすいのです。最も普通に見られる皮膚の發疹は脂漏であります。前頭部に灰色或は黒色の瘡蓋の様なもののがひつついて來るのであります。これは皮脂腺と云ふて毛のつけ根の所にある脂を出す腺がありますが、これが新陳代謝が烈しい爲に、非常に分泌が盛んで餘計脂を出し過ぎるので、瘡蓋の様になつて固つて來るのであります。これは殆ど全部の乳兒に見られると云つてよろしい。これが軽い間は別に病氣といふ程のものではありません。これは手入さえよければひどくならず其の儘済んでしまひますが、手入れが悪いと脂漏症の濕疹になり随分酷くなることがあります。これの手當であります。毎日お風呂を使ふ時によく此處を石鹼で洗ふといふ事が、一番簡單であり大事な事であります。それでもまだ溜る様でしたら、早く簡單な藥で取つてしまふのがよろしい。時々産婆さんの所から、子供さんが見える事がありますが、その手當をして貰うたのを見ますと、「テルマトール」や「キセロホルム」等の撒布剤をつけて居られる人がありますが、あれは宜しくありません。石鹼でやりまして取れない場合には、「ワゼリン」の類、普通一パーセントか、二パーセントの硼酸「ワ

ゼリン」或は硼酸軟膏を薄くお塗りになると割合早く綺麗に取れてしまひます。そして其の跡が、少し爛れるといふ様な氣味がありましたならば、それも餘り撒布剤を使はず少しの間軟膏（バスター）の類をお使ひになつた方が宜しい。その代表的なものには、「ピチロール・バスター」「イヒチオール・バスター」等がありますが、餘り濃いのはいけません。普通發賣して居る「ピチロール・バスター」は、十パーセントになつて居ますが、さういふ濃いのを使ふと、かへつて悪くなります。赤ちゃんに使ふには、一パーセントか二パーセント位のものであります。此等を極く濃く、一日二日續けて塗つてやりますと、皮膚が綺麗になります。皮膚が綺麗になりましたならば、今度はお風呂で今迄の様に洗つても宜しい。其の脂漏が酷くなつたり、後の爛れが酷くなつた場合には、頭だけは洗はん方が宜しい。殊に石鹼は御使ひにならない方が宜しい。脂漏の事はそれ位にしまして、それからよく見られるのは、爛れ、汗疹であります。これはよく赤ちゃんの襟首の所、或は皮膚と皮膚との擦合ふ股の邊に出來るのであります。其原因は赤ちゃんは新陳代謝が烈しいと云ふ事、それから不潔になりがちであるか

らもう一ツは、日本のお母さんは非常に赤ちやんを大事にします、何んでも温めたいと思つて、澤山着せる習慣がありますので餘計汗をかくて爛れる、そう云ふ風な事が原因だらうと思ふのであります。これも軽いものは病氣ではありませんから、直に癒ります。これには「デルマトール」や「キセロホルム」を御使ひになつても宜しいけれども、一寸酷くなつて、滲出物が出る様になると餘り有効ではありません。これは粉をつけてもうまくつきません。さういふ場合にはやはり、バスターの頬を薄くつけてやるか、或は始めに天華粉とか亞鉛華澱粉とか云ふ様なものを一寸つけて置いて、その上から薄く膏藥を塗り、そして其の上から粉をつけて置くといけません。腰の圍りでしたら再々御襪を替へてやらないといけません。大體手入れが悪いから、こゝう云ふものが出来るのでありますから、癒そうと思へば御襪を再々替へてやらなくちやいけません。首の邊に出た爛れでありますと、癒り易いです。薄く膏藥を塗つて、亞鉛華澱粉をつけておけば直に癒ります。それから、お臍の所に爛れが出ます。まだ臍帯の痕跡が残つてゐる内に出る事もありますし、臍の緒が取れてから出る事もあります。そ

れは皺になつて居る所ですから、分泌物が溜つて居る事がありませんし、又お湯に入つた時、水が入つて拭き取れない様な場合もあります。どうも凹んでゐるので不潔になりやすいです。又外の細菌が入りまして、軽い化膿性の變化を起したりする事もあります。さういふ場合には棉花で中の汁を丁寧に取り取つてやります。さうして單に「デルマトール」や「キセロホルム」をつけるだけで無く、少し消毒薬を用ひた方が宜しい。それには赤ちやんですから、刺戟するものや強いものは不可ません。「プロタルゴール」や「チヨノール」も濃いものは刺戟します。○一パーセント位だと心配ありません。「チヨノール」は刺戟が少なくてから、○五パーセント位迄お使ひになつて宜しい。私は好んで「フルメヨジン」といふ薬を使つて居ります。これは大阪の鹽野で出してゐる、赤い消毒薬で「ヨーチン」の代用に用ひられて居ります。此をしませた棉球を作つて、赤ちやんの臍を拭ひ其の上に膏藥を附けるなり、粉をふるなりして置きます。其の方が癒る率が多い。簡単な事ですけれども、さういふ事も必要だと思ひます。それから股の爛れ等でも餘り酷いと汁が出る場合があります。汁が少し混濁して来て、

一寸觸つても赤ちやんが痛がると云ふ様な場合には、消毒薬を少し始めに塗つて手當をなさつた方が宜しい。それから第三番目に膿痂疹、俗に飛火と云ひますがね。これは學問的に申しますと、白色葡萄球菌膿痂疹、或は傳染膿痂疹と云ひます。これは本年なんか、夏に大變流行して居りました。八月下旬から九月にかけて、暑かつたせいでもありますか、非常に多いでした。これは傳染性の病氣であります。大人には來ないで、赤ちやんにうつつて行くものであります。子供でも六ツ七ツの子供には餘り出来ませんが、うつつても極く軽いです。非常によくうつりますし、一ツ出来ると次々に飛んで来て、仕舞には始末に困ります。昨年の事でありましたが、婦人科の病院でお産なさつた方の赤ちやんに此病氣が出来て、其の赤ちやん一人を見て居りましたら、次々と飛火して、七、八人手當をした事があります。さういふ風に多くなると困りますから、早く癒さなければなりません。これは始め小さい赤い點が出来ます。それがすぐ小さい粟粒位の水疱となつて、一日もたない内にかなり大きくなります。大きくなると拇指の頭とか、鶏の卵位迄になる事があります。粟粒大の水疱であり

ますと、少しほつて置くと、下の方に半月狀に白い膿が溜つて來ます。これが特徴であります。一寸擦れたりすると爛れて赤ちやんが痛がります。その汁によつて次々に移るのです。大抵顔から始まつて、頭手足一杯に出來ます。この手當は餘程むつかしいです。やはり早い内に癒さないとなけません。餘り遅れてからだに始末におえませんが、早い内ですと、水疱を潰してやる、粟粒大の水疱であれば、「ピンセット」で一つついて、棉花の様なもので押へ、其の後を昇糸綿花の様なもので拭きます。「リゾール」棉花でも宜しい。「アルコール」は刺戟するから不可ません。水疱の内容を早く吸ひ取つてしまつて、其の後は細菌が居りますからやはり消毒薬をつけます。私は「アルメヨジン」を一寸つけて乾かしてそれから膏藥を塗ります。又こゝう云ふ様な赤ちやんの水疱性の病氣には、人工太陽燈が非常によくきます。これを御持ちになつて居る方は、水疱が出来たら早くこれをかけて大抵間違ひありません。普通かけ方は、四十種位の距離で三分か四分位です。時間が短くてよくきゝます。そして今の様な手當をして、二、三日すると乾いて、次の皮が出来、瘡蓋が出来て取れて來ます。手當さへ

順調に行けば割合簡単な病氣であります。手當を誤ると體中にひろがつて始末に困ります。普通は熱が無いので、豫後が大變よろしいが、手當を誤ると黴菌の傳染が強くなつて、淋巴腺が脹れ、其の爲に熱が出て體を悪くします。場合によると亡くなる赤ちやんもあります。それから其の次によく出るのは濕疹(くさ)であります。頭や顔によく出来ます。原因は色々ありますが、やはり新陳代謝が烈しいといふ事もあります。又赤ちやんの皮膚が弱いと云ふ事もあります。こう云ふ様な場合には豫め赤ちやんの皮膚に刺戟を與へる様な事を避ける、例へばこれから冬になりますと、毛布や毛糸を直に顔や體につけると云ふ事を避けなくちやいけません。それから出来た場合には、軽い内に今申しました薄い「バスター」の類をお塗りになると宜しい。餘り濃く塗つちや不可ません。塗り方があります。出来て居るものへ、ベツタリ塗るとよくありません。赤ちやんですと、チョツ／＼と指の先でつけて、掌で僅に皮膚が隠れる程度につけてやります、何時でも後から亞鉛華、天華粉等で軽く壓へて置く。一遍つけた薬は無理に取ら無い方が宜しい。次の日に皮膚を綺麗にしてやらうと思つて、

「ガーゼ」や棉で取ると、癢りかけて居るのがめくられてしまひます。癢ると云ふのは下から強靱な皮膚が出来て、入れ替りになつて癢るのでありますから、下に未だ皮の準備が出来ない内に取ると、何時迄たつても決して癢りません。一度つけたら無理に拭つては不可ません。軽く「ガーゼ」で壓へる位にして、次に薄く塗つてやれば宜しい。それを三四日續けて稍々皮膚が落着いて来ると、塗つた所に黴が寄つて来ます。少し薬の黴が寄つて浮いて来る様になると、一寸見てもはがれそうになります。そう云ふ時期になりましたら始めて、「オリーブ」油、無い場合には菜種油(揚物をする時に使ふ油)を棉につけて拭つてやると宜しい。皮膚の丈夫な赤ちやんとか一寸大きな方には、石油「ベンジン」をお使ひになつても宜しい。揮發油を御使ひになる場合には、あれは揮發するのでよく眼を刺戟します。小さい赤ちやんなんかは、眼の附近を拭く時はよく注意して、手で隔てるとかしてやらねばなりません。「ベンジン」も餘り澤山おつけになら無い方が宜しい。「オリーブ」油も必要な丈つけて、力を入れずに軽く拭き、そうして手入れをして置きます。頭へ濕疹が出来たら體裁を云はずに、早く毛を

つんで坊主にしてしまふ。そうせないとも毛の爲に汚れて色んなものが著きます。もう一ツつは膏藥なんか著きにくく、手當が出来にくいですから、思ひきつて早く毛を切つてしまひます。それからもう一ツつは繃帯をする、濕疹なんかですと非常に痒いので、生れて二、三日位の赤ちやんでも痒がつて、一寸しても一生懸命に掻いて居ます。仲々えらい力のもので、その邊を眞赤にする位擦り附けます。お母さんがお乳をやる時に擦り附けたりしますから、早く繃帯せねばなりません。田舎の方なんかで直にお醫者さんに見せられない所では、少なくともそう云ふ所迄迄は、産婆さんがやつて上げる方が親切だらうと思ひます。それからよく赤ちやんには汗疹が、原因で、化膿して来る事があります。けれども汗疹が直接膿んだ様な恰好のものは心配ありません。直に潰して宜しい。今年の夏の様には暑い場合には皮膚の下に入つてしまつて膿疱を作る事があります。皮膚の下で膿んで瘡が出来た様になり、澤山膿を持つたものが出来て来ます。こうなると大變始末が悪いです。これは大變危険な事があります。私もつい四、五日前でありましたが、小兒科のお醫者さんに招かれて往診に行きました。

どうも八度位の熱があつて二週間程取れない。此處に少し汗疹が出来て居るがこれが原因でしようと思ふので、よく見ると皮膚の下に澤山膿疱が出来て居ました。それが原因で熱が出て居り、従つて淋巴腺が脹れて居りました。熱があるので食物も食べないし、乳も呑まないので栄養が悪くなつて居りました。腫物を急ぎ剝ねてしまひましたら、二、三日で熱が下りました。皆さんがそう云ふ場合にぶつかつたら膏藥を早く塗る事です。一番通俗的には單軟膏或は硼酸軟膏をお塗りになりました(「ビツク」の様なものでも宜しいが)二、三日すると膿が出ます。私は好んでこう云ふ場合には、五パーセントの「ピチロールザルベ」を使つて居ります。これは硼酸軟膏に「ピチロール」を入れたものです。此が乳兒から四、五歳位迄の間に上眼瞼の上に出る事があります。それをほつたらかして置くとみつちやにならなければなりません。これは大きくならない内に早く突いてやすね。瘡でも色々種類があります。俗に云ふ赤瘡(血管腫)青瘡、又灰色の瘡、褐色の瘡がありますが原因は皆違ひま

す。青い痣は大體に於て、特別の色素が沈着して居ますから治療がむづかしいです。褐色の痣、赤い痣は割合に癒りやすい。殊に六、七歳位迄の間に手當をしますと簡単に癒ります。赤痣ですと一番いゝのは「ラジウム」の治療で、殆ど痕跡の無い様に癒ります。大體赤痣と云ふものは、生れてすぐは割合氣が付きません。赤ちやんは赤いので色が褪めてから、始めて表れてきます。然し中には始め見えて段々消えるのがあります。それは本當の痣では無く、大抵お産の時に何か皮膚に無理があつて、一時的に皮膚に充血を來したと云ふ場合が多いのであります。こう云ふのは少し経過を見て居ますと、段々褪めて來て酷いのも二、三年で癒ります。小さい時に氣が附かなかつたのが段々酷くなる痣があります。こう云ふ風に體が大きくなるにつれて濃く大きくなつて行く痣は、治療せないと癒りません。餘り大きくなら無い内に、治療なされた方が宜しい。乳兒の間は一寸具合が悪いですが、物を食べる様になつてから、學齡迄の間に直すと宜しい。ほつて置いて十四、五歳になると、組織が固まつてしまふので直りにくいです。まあ大體赤ちやんに關係のある皮膚病はこんなものだと思います。

一般的の注意とし私の希望を申し上げますと、赤ちやんの入浴は絶対に必要なものであります。毎日綺麗に石鹼で御洗ひ下さつて宜しい。少しでも皮膚に爛れや、發疹のある時は、其處だけ少しよけてほしい、石鹼で洗ふとかへつて悪くします。脂漏の場合は、早い内でしたら石鹼で御洗ひになつても宜しいが、其の他の場合は其處だけ觸つては不可ません。少し重症の場合は寧ろお風呂をやめた方が宜しい。早く病氣の所を癒してしまは無いと、取り返しのつかない事になつてしまひます。皮膚病の手當は中々むづかしいものです。殊に赤ちやんの皮膚病の手當はむづかしいです。これには多少の熟練も必要であります。大體から云ふと、親切、丁寧にしてやる事です。藥を一ツ塗るにも、唯つと塗らずに、伸ばす様に塗つてやる、發疹が一ツもぬけ無い様に、丁寧に塗つてやる事が必要です。それから今迄拜見して居ますと、キセロホルム、「デルマトール」、天華粉等を、何でもかんでも使ふといふ風になつて居る様ですが、これは不可ません。殊に指蓋の出來た様な場合には不可ません。こう云ふ時には先づ先程申しました様に、指蓋を取つて、撒布劑を使ふ様にして下さい。これで大體私の話の内容は終りました。

## 七、結辭、胎毒内攻の話

最後の結論と致しまして、胎毒内攻の話を致します。こうと云ふ字は、攻と云ふ字を當嵌めていゝ、かどうか知りませんが、私が勝手に書いて見たのであります。よく赤ちやんに色んな發疹が出來た場合、此の發疹を癒したら内攻せないかと云ふ質問を受けます。これは若い方には割合少ないですが、お年寄のある家庭では、よくこう云ふ質問を受けます。それから又、此の病氣を癒したら餘病が出やし無いかと云ふ質問を受けます。特に京都地方では、内攻と云ふ様な事を喧しく云ふので無いかと思ひます。昔からの習慣があるのだと思ひますが、内攻すると云ふ事を、大變恐がつて居られる様です。梅毒でありましたならば、これは勿論一日も早く癒さなければなりませんし、それから其の外の皮膚病でも、内攻すると思つて放置しておく事は大きな間違ひだと思ひます。これはやはり病氣でありますから、それが原因で淋巴腺が脹れたり、熱を出したり、或は外の病氣で合併したり、場合によつては赤ちやんを死に至らしむる様な事が、間々あるのであります。これは癒したからと云つて、決して差支へがあるものではありません。

恐らく此の内攻すると云ふ事を心配するのは、赤ちやんが其の時、外の病氣を發してゐて、その病氣の爲に體が非常に衰弱して濕疹を癒した時に偶然赤ちやんが亡くなつたと云ふ様な場合に相當するのだらうと、私は想像して居ります。皮膚病を癒した爲に内攻すると云ふ考へは、私はこれは迷信だと思ひます。丁度娘さんの丙午を嫌ふ様に、一種の迷信であると思ひます。然し、此の胎毒が内攻するとか云ふ考へが、相當根強く廣まつて居るので、誠に皮膚病や胎毒の治療がしにくいのであります。その爲に却つて御本人或は家族の方が、不幸に陥る事が多いのであります。此の問題は單に我々ばかりで無く、皆さんの御盡力、御助力を願つて、皮膚病を癒し内攻すると云ふ様な、間違つた考へを持た無い様にしたと思ひます。それがひいて多少とも、乳兒の病氣を少くすると云ふ事に貢獻するのでは無いかと思ふのであります。實は本日此處で話をさせて頂く様になりました動機は、此の所謂、胎毒の内攻と云ふ様な、間違つた考へを直し度いと云ふ所にあるのでありますから皆さんと一緒に、こう云ふ間違つた考へを一日も早く訂正する様にし度いと思ふのであります。これで私の話は終ります。どうも長い間、御静聽を煩はしました。

先天性畸形の早期発見と豫防

醫學博士 林

喜作



先達産婆會の方々から、何か私にお話をせよといふ事でありました。當時私はこの先天性の畸形に就てしよつちう注意を拂つて居ります者でありますからして、この畸形を始めて見る機會を持つて居る皆さんに一度お話ししてそしてこの先天性の畸形の研究に御協力下さる事を私は心から願つて居つた事でありますから、早速お引受けした次第であります。で今日お話する演題もその時に直ぐさま決めましてこの先天性畸形の早期發見と、それからその豫防といふ事に致した次第であります。で、時間が制限されてありますから、どの邊までお話出来るかそれは分りませんけれども先づ行當りばつたり、私の思ひついた事をこれからお話しして行かうと思ひます。でこの今日の醫學といふもの、つまり究極の目的といふものは、無論、疾病の本態を究めてこれを未前に防ぎ、その疾病を絶滅せしむるといふ事は、私はあると思ふのであります。然しこの豫防といふ事は、なか／＼實際行ふに當りましては、非常に困難な事が各方面から起つて来るものであります。例へば今、交通災害、つまり街頭に於ける色々な交通事故に致しましたも、これは交通事故が何で起つて、そしてそれから色々な災害が何で

起るかといふとそれは、交通する人の注意力が足りない、それが一つと、自動車や自轉車を運轉する者の不注意とであります。そうすれば、これを豫防するといふ上から云つたならば、人の注意を喚起すればよいわけでありませう。然し人間の注意といふものには限度のあるものでありますから、特別の不注意といふわけではないけれども、そう何時も／＼人間は緊張して歩けるものではない、時には不注意な事が起り得るわけでありませう。それから自動車や自轉車の爲に負傷するとしたならば自動車や自轉車なんか街頭から追拂つて了つたらよい、交通事故を無くする事が出来る。然し乍ら今日の社會状態では追拂ふ事は出来ない。それでつまり豫防といふ事は云ふべくして、原因は分つてゐても行ふ事は出来ない。自動車は益々スピードを増加して行く仕方がないから、消極的な交通整理といふものを行ふ、そうして災害を幾分なりとも減少しやうといふ方針でやつて居るのであります。それであるからその豫防といふものは消極的であります。疾病豫防に於てもこれと殆ど同じ事でありませう。原因は明らかであります。明らかでありますからして必ず豫防し、且つ絶滅し得るわけでありませう。

も色々な社會的方面の事情から今日それを實行する事が不可能な場合が澤山あります。目の前に見える結核或ひは梅毒といふ様なものもその原因は明瞭である。然もこれを豫防するといふ事は色々な方面から故障が起つて實行が困難になる。で、今この畸形の豫防といふ事をお話しますが、畸形の豫防といふものは、現在その原因といふものが不明であり、その畸形の本態といふものも明らかではない、従つてこれを豫防するといつてもどういふ風な方面から豫防してよいか全く方針がたないわけでありませぬ。然るに私が今こゝで、畸形の豫防といふ事を演題に掲げたのは少し早計に想はれる方もあるかも知れませぬけれども、だんだん畸形といふものを調査して行きますと、我々の畸形の内、先天性の畸形とそれから後天性の畸形とがあります。後天性の畸形といふのは、生後色々な疾患或はその他外界の外力によつて出来たものであります。先天性の畸形に就いては未だ何等豫防法が企てられてゐないのであります。後天性の畸形に就いては現在色々な豫防法が講ぜられてゐます、今例を擧げてお話ししますと、例へば小學生の脊柱の彎曲即後彎症、側彎症を起す事に對して、豫防法としては

先づ小學生の靴の掛け方を右から左へ或は左から右へ片一方からばかり靴を掛けるからいけないとか。或は學習の際に於ける机の高さが悪いとか椅子の高さが適當でないといけないとか、その外、脊柱を矯正する爲に適當な體操法を行へとか、云ふのであります。色々この脊柱の彎曲に就いては現在學校でやかましく言はれてゐます。それは脊柱の彎曲を豫防する爲であります。然し未だこの、子供の背負つて通學する所の荷物の重量の事に就いてやかましく言はれて居ない様であります。これも變て考へられなければならぬ問題になる事と思ひます。現在の小學生は随分重い荷物を背負つて通學してゐます。又扁平足に就いても随分と豫防的に色々云はれてゐます。例へば子供を早くから立たせてはいけない、それから這ふ時間を長くせよ、子供が勝手に立つまで立たせてはいけない、充分立つだけの力が足に出来た時始めて立たせよ。それから早く靴を履かすな、成るべく足は露出しておきなさい。それから子供の時にサンダル靴を履かすのはいけません。それは、サンダル靴は靴底が平面であつて動かないからいけない。靴の構造は特にやかましいのでありまして、足の指の發育を障礙

する様な靴はいけません。踵の小さいのはいけません。それは踵の安定を缺いて、足が外彎の位置になりやすいから、歩き方も外輪に歩くのはいけません。眞直に歩く様にせよ等であります。然しこれに就いては随分色々な障礙が起つてくる事も諸君が氣附くであります。特に婦人靴なんかは流行を追つて作られてゐます。決して衛生上を懸念して作られてゐるものではありません。サンダルの如きは一種の流行であり、こゝにいふ事は直ぐ社會の狀態と色々な衝突を起すものであります。直ぐ様實行せよといふ立場になると、これを強制し得る所の場合である中學校、女學校等でなければ出来ないのであります。で、かういふ風な後天性の畸形であると、色々豫防法が云はれて、又それで効果を上げてゐるのであります。で、この後天性の畸形はその外の色々な疾患にかゝつた際にそれを完全に治療するならば畸形を起さないで治癒するといふ場合は非常に澤山あるのです。例へば骨折、關節炎、これは醫學が進歩したならば、この後天性畸形といふものは絶滅とはいかんけれども、少くともその數を減じ得るものであります。然し、こゝにお話しやうとする先天性の畸形といふもの

——生れつきの畸形といふもの——に就いては前にもお話した様にその本態といふものが明らかでない、それであるから全く未開の領域に屬するものであります。畸形、殊にこの胚種の起源、即ち精子とか、卵細胞とか、それ等のものに缺陷があつて或はこの卵細胞が受精をする際に何か障礙があつたといふ様な、さういふむつかしい我々が唯想像する様なつまり受精以前に缺陷があつて来たと思はれる様な畸形、それは明らかに遺傳を證明し、又大抵證明されるものが多いのであります。つまり畸形が遺傳する。で、遺傳するといふ様な畸形を豫防するといふ方面から云つたならば、優生學の見地からすれば斷種法に進まねばならぬ、つまりその種を絶滅させなければならぬ、子孫を断たなければならぬのであります。斷種法は既に歐米に於いて行はれて居ります。それは殊に遺傳を證明する所の精神的缺陷者、それに行はれてゐるのであります。で、大抵の國では非強制的に現在行はれて居る、強制的には行はれてゐないのであります。獨りドイツに於いては現在ナチス政府が、優良なるドイツ民族を作るといふ事に熱中してゐる爲に總てのユダヤ人を排斥した様に遺傳や精神的缺陷者

は勿論、重症なる畸形患者もこの内に包含せしめてゐる。然して半ば強制的にその斷種を實行してゐます。それであるからドイツに於きましては既に行はれてゐる事であるから、聽てはこの日本に押し及んで來るものと思はなければなりません。その時にこの方法が日本の社會制度とよく合致するや否や、我々は未だ非常な研究が残されてゐると思ふのであります。然し乍ら、聽てはドイツでやつてゐる事は、日本でもよく眞似をするのであるから、日本でも眞似するのだらうと思ふのであります。そしてさういふ事は起り得ると思ふのであります。然し、遺傳といふものが實際その原因であるならば遺傳の源を斷てばそれは絶滅し得ると先づ考へられます。然し乍らこれは、今日の社會状態では中々直ぐ早急に實行出來るものではないと思ふのであります。

次に、先天性の畸形にどういふものがあるかといふ事を述べて、それから色々な畸形に就いて一、二の例を擧げてそして、それを取扱ふ豫防法といふものをお話し様と思ひます。で、順序を立て、やはりこの先天性の畸形の内に前から分類されてゐる——色々な教科書に分類されて

力が働いて、それを畸形に導くといふ事なしでもとゞ、それがさういふ畸形になる様に出來てゐるのであります。それには色々な骨の缺損症、例へば頭骨が缺損してゐるもの指が缺損してゐるもの頸骨の缺損してゐるもの、足の趾が缺損してゐるもの、甚しきは上肢が全部缺損してゐる、腰が一個の方が缺損してゐる、さういふ風な甚しい畸形があります。そのほか脊椎が破裂してゐるとか、簡単な例では指が五本あるべきものが六本ある。或は七本ある、さういふ風の多指症といふものがこれに考へられるのであります。で、これは、尙これに屬する畸形は非常に澤山あるのであります。色々な人體の内部の諸器官が一部分若しくは全部が缺損してゐる様な場合がある、諸君の遭遇する生殖器官だけでも色々な畸形が澤山ある。で、これらは皆胚の起源に缺陷があつたと今日考へられるのであります。無論それであるから遺傳を證明するものが多いのであります。遺傳を證明するものとすれば今も云つた様に斷種法を行はなければならぬが、今日それは直さま實行出來ない事があります。我々はそれであるからこれらの畸形に對しては、適當な時機に外科的手術を施して、指が六本あるもの

る——方法でこれを分類していつてお話し方がい、と思ひます。それで一番始めに、この、胚種の起源に缺陷のある畸形。その次には二次的に來たる、子宮内に於ける外力によつて起る畸形。三番目に、出産時に於ける外力。先天性の畸形の内には、生後、生れて直ぐ發見されるものがあります。然し乍ら生れて直にさう著明には見えない、さう著明には現れて居らずに、だん／＼と外界に生れて來てからその畸形が増加して行くものがあります。それから又一つには、先天性の畸形が生れた時に著明であつても、外界の良好な影響によつてだん／＼と自然に健全な體に恢復して行く、遂には全く健康體となるものがあります。つまり生れてから、其の畸形が増悪するものと自然に癒るものとがある、これは不思議な様であるけれども我々は日常これを見て、自然によくなくなるといふ場合が澤山あるからさういふ事を云ふのであります。自然にほつておいてもよくなるといふ場合があるのでありますから、これを色々豫防的に豫め處置しておくといふ事が問題になつてきます。

で、第一番にお話するこの胚種の起源——みなもと——に缺陷があると考へられる畸形は胎生期には別に何らの外

は五本にする、四本のもの五本にするのはなか／＼むづかしい。然し我々はまあそれを出來るだけ五本にする様に考へてやつてゐます。そのほかもし我々の外科的の力が及ばない様な畸形は色々な裝置を施してそしてこの機能を保持せる、例へば歩行の不可能なものは歩行し得る様な義足を與へるとか、手の缺損してゐるものに對しては義手を與へると云ふ様な消極的な方法をとつていつてゐるのであります。それよりほかには今日やり様がないのであります。その次に來る先天性の畸形では、所謂二次的に來たる先天性の畸形、これは畸形と云はずに變形といふ人もあります。未だ整形外科或は外科では言葉が一定して居りませんが、からまち／＼でお話が分りにくいかも知れません、畸形とか變形とか云ふ様に正しく使つてゐないのであります。これは胎兒の起始、胚種の起源——胎兒のもと／＼の起源には何の變化のなかつたもの、つまり正常なる胎生時にほかから外力が加はつてそれを畸形にしたのであります。つまり二次的に畸形になつたのであります。これにはその胎兒が全く健康な場合と、それから胎兒が母體から色々な疾患を傳染してをつた——その傳染してをつた胎兒が外界から

影響を受ける場合がある。この全く健康な胎児が外界から、つまり胎児以外から、胎生期に外力が働いて——胎児以外の力が働いてなつたもの、これは外力と云へば外傷、つまり外から、妊娠中に外から外力——強い外力——が働いても胎児に影響するわけでありませぬ。がさういふ外力は極めて少ないさういふ外力を母體に及ぼす事は大抵流産を起す事は諸君が知つてゐるのであります。さうでなくて、連續的に種々一定の期間外力が働いた場合も多いのであります。主に胎児の周囲の組織が異常である、つまり胎児との關係が異常である、第一番に胎児の外にある所の羊膜が病的状態となつて胎児に癒着する、或は胎児の四肢の或部分を絞索する事によつて、つまり胎児の子宮内の羊膜絞索が出来上り、或は羊膜によつて子宮内切斷といふ事がおこるのであります。次に胎児がだん／＼發育するにつれて羊膜が充分擴張しない場合、主にこの羊水が寡少である場合つまり子宮腔内が狭いさういふ場合には胎児は子宮内に於いて充分な運動をする事が出来ない、胎児は子宮内に於いて四肢の運動をしなければ四肢の發育が完全に出ません。若し胎児がこの狭い所で周囲から壓迫せられ抑へつけられ

てゐる時、つまり強制位に窘束されてゐる時、——無理な位置に抑へつけられてゐる時、こゝに畸形といふものが成り立つのであります。で、これには尙母體の骨盤が小さくてもなるし、子宮に新成物があつてもなるし、或は臍帶の纏絡であるとか、胎盤の位置の異常であるとかつまり異常な壓迫が胎児に働いた場合に胎児の發育に障礙が起つて、異常な方向に胎児が發育せねばならぬ様にせられてしまふのであります。これに屬する様な畸形はどんなものかといふと、先天性の斜頸の様なものがあります。その外先天性の脱臼であるとか、四肢の短少なもの、それから内翻足、外翻足、そのほか色々な筋肉の麻痺もあれば筋肉の攣縮もあるのであります。この、壓迫されたといふ事は胎児が生れた——出産後、壓迫された部位に癩痕が見られ、臍帯が見られる、抑えられた——床摺の様子に抑へつけられた傷痕がある。それは胎児の突出した部分によく見られるのであります。それであるからこの胎児は胎生期に抑へつけられてゐたといふ事が分るのであります。で、尙出産後間もなく、或は數日の内であればその新生児が手足を伸ばしてゐるのを縮めて元の様に組合はせるといふと、丁度子宮

内に居つたすがた、その肢位に復元する事が出来る。子宮内に胎児がどういふ態に居住して居つたかといふ事を復元して見る事が出来るのであります。これらによつて胎児が強制せられた位置に、——抑へつけられた位置に壓迫されて居つたといふ事が明瞭になるのであります。それでありますからして私共が調査する際には皆さんの様に、出産の場合に立會ふ事が出来ないから、妊娠中お腹が大きかつたか小さかつたか、胎動が著明であつたかかなかつたかそれ聞き取るだけに過ぎないのであります。で、皆さんであつたならば羊水が多量であつたか、少なかつたか、それから又腹部の方面の度合もよく分る事でありませぬ。で、これ等の畸形は子宮内に於ける胎児の負擔過重によつて生じた畸形、つまり一つの胎児の肢體が外からの力によつて壓へつけられてこれによつて出来る畸形と見做されます。胎生時の生活中に於いて、これは元々胎児が健康児であつたとすればこれを豫防するには全く妊娠中の攝生が大事であります。胎児は申す迄もなく正常な位置になければならないそして適當に胎動する様な腔間を所有して居なければならぬ、即ち適當な羊水をもつてその中に游泳して居られる

が望ましいのであります。外からの壓迫は無論避けてほしい。私は先だつて一畸形患者を診ましたが、その際母親のお腹が大きかつたか小さかつたと聞くと、餘り大きかつたものだから婦人科の醫者に診てもらつて注射をしてお腹を小さくしてもらつたといふ事を申されました。誰にかゝつたか私は知りませんが然し乍ら、お腹が大きいかといつて直ぐ羊水過多症といふ事は出来ませぬ。體裁が悪いとか何かで小さくされては私の方では大變困るのであります。お腹が大きいのは遠慮なく突出さしておいてほしいのであります。若し婦人科の方で羊水を勝手に増減出来るならば出来るだけ餘計目にしておいてほしいのであります。

(笑聲)

で、この際胎児が受けた外力が、その程度が色々であり、又その胎児の受けた時機、例へば胎生時の始めであるか終りであるかといふ事、又受けた時間——始めから終りまで受けたか、途中で受けたかといふ事によつて、受ける力の程度の色々によつて、出来る畸形も色々であります。それで全く輕微なものは健康児と何の變りもないといふ様な輕度なものから、非常に重症なものに至るまでこれに含まれる

のであります。それであるからもしかういふ畸形を分娩時に見たならば、即ち胎児はやうやくにして今までの壓迫の苦痛を耐え忍んで出産したものでありますから出産後は出来るだけ早く自由の天地を胎児に與へてやつてほしいのであります。そうすれば軽度のものには速に恢復し、重いものもその幾分は恢復の道を辿るものと思ひます。とにかくよい方に向いて行くものと思ひます。然し乍らこの生れた子供が再び外界から色々な悪い影響を受ける場合がある。それは折角生れたのに再び今度はおむつ、や何かで非常に厚く包みたてそうして上を紐で固くく、今迄子宮内で充分緊迫されて居つてやうやく廣い所に出たと思つたら又抑へつけられる。それでは子供が伸びるせいがないわけでありませぬ。元々、かういふ緊縮を伴つて居つた様な場合、子宮内にて壓迫されて居つた様な胎児はそう健康なものとは思はれない、つまり素質が劣性であります。優性とは見られないのであります。やはりかういふ風な種類の畸形にも遺傳を證明するものが澤山あり、又ほかに畸形が一緒に合併してくるものが澤山あります。それであるから生後直ちに從事しなければならぬ事は、これ等の畸形患者が生

れたならば直ちに適當な保護を加へてやらなければならぬのであります。で、最も多い先天性の緊縮とは先天性につまり子宮内から生れた時に胎児の四肢が緊縮の位置をとつてを、手足を伸ばさない、伸ばさうとすると抵抗します。意識的にするのでなくて筋肉が緊張してを、伸ばさない、かういふ風なのを先天性の緊縮といふのであります。これは色々程度があつて、一寸位なものであれば入浴をさせておく、とほつほつ癒つてきます。然し少し程度の高いものは速かに他動的のマッサージを行ふなり、矯正運動法——體操法——をやらなければなりません。そしてこの緊縮を去つてやらなければいけません。これは小さいもの程効果が速かでありませぬ。前にお話した斜頸の如きものでも生れて生後直ぐに見た場合には大抵この頸を元の位置に眞直にする、と、眞直になるものであります。その際に我々が發見するのは引張られる方の側の胸鎖乳嚢筋の下半分の部分に於いて大抵母指頭大位の塊を觸れる、以前この塊は血腫であるとされた事があります。従つて斜頸は分娩時に於いて頭部が引張り出さるる時に血腫が出来、それが吸収されるに

ついで癭痕性緊縮を起すものであるといふ考が行はれて居りました。永い間かういふ説に支配されてを、つたのであります。然し乍ら今日我々がこれを取り出して見ると血腫といふものはないのであります。出来てゐる硬結は新しい結締組織から成つてゐる所の新成物みたいな物からなつてゐる。どうして此が出来るかといふ事に就ては色々議論があります。で、この硬結は、ほつておいてもだん／＼消滅するか勿論マッサージをなせば速に消失する。ほつておいてもだん／＼吸収され、この跡に癭痕性緊縮が起つて——つまり、筋肉が短くなり頸が一定の位置に傾いて伸びない様になるから、吸収する際——即その緊縮の来る以前に於て頭の位置を適當な位置に加減して曲らない様にして抑へておけば斜頸は出来なかつたり矯正しておけばよいのであります。無論、斜頸に伴つて来る種々の發育障害例へば顔半分の發育が悪かつたり、耳の位置が下方であるとかいふものはすぐさま癒るものではないけれども、斜頸といふものは生れた時治療しておけばあんなにひどい畸形は出来上るものではないのであります。最早緊縮を起してからは胸鎖乳嚢筋には始の如き硬結が觸れないでかへつて腫の様な硬

いものが胸鎖乳嚢筋の大部分を占める、その時はマッサージで矯正する事は遅い。徒勞であります。やはりその際は、外科的手術を施して矯正した位置に、或は過度に反對の方向に矯正してギブス繃帯を以て固定して治療すべきものであります。それでなければ治療は正しくありません。それであるからこの斜頸といふものは早く適當にマッサージをするか、マッサージの後には頭が回らん様にしておく。この際極簡単なのは綿を當て繃帯する。とに角く傾く方に枕を添えて繃帯し眞直な位置にしておけば癒るものがあります。それから内翻足とか、外翻足とかいふものもあります。内翻足といふ様なものはその程度が色々であつてつまり胎生期に早くから抑へつけられてゐたものと、後の時期に抑へられたものとは大變にその程度が違ふのであります。それは非常に骨の發育が悪くて、足全體が小さいものが澤山ある、足が誠によく發育して居つて只少し曲つてゐる様なものは手でもつて矯正すると易く正常な位置にかへるのがある、かういふものは速に矯正を施す——矯正マッサージを患肢に行ひたる後、簡単に、矯正した位置に抑へておく、——それは木綿繃帯でもよろしい、或は絆創

膏で抑へてもよろしい、そういふ事を注意してやれば癒るべきものであります。然し乍ら内翻足は多くは頑固でありその治療も困難なものが多いためです。で、難しいのはやはり手術的に始めからやつた方が適當であります。矯正位にギブス繃帯で固定する。それで内翻足の矯正はたゞ足関節だけではないのであります。内翻足の場合は膝関節から以下全部が異常であるのだから、膝関節以下全部を矯正しなければなりません。足関節だけを繃帯でくつたのでは内翻足は永久に癒るものではありません。大腿の中央部から以下を矯正しないと癒るものではありません。馴れない人は多く足関節だけをくつておくからまちがふのであります。内翻足はさういふ風に頑固であります。初生児にある外翻足或は鉤足といふ様なものは、これはほつておいても自然的に癒るものであります。程度の甚しいものは癒らないけれども、大抵の場合は放任しておいても癒る。マッサージをやれば尙更早く癒るものであります。手術を要するといふ場合は殆どないのであります。それからこの初生児の先天性彎縮では、上肢の前膊の廻前位彎縮と云ふのがあります。掌が上にひつくりかへらないのであり

ます。上肢ではかういふ位置をとる畸形が澤山あつて先天性彎縮だけではないのがあるからよく注意しなければなりません。橈骨尺骨の癒著、肘関節の先天性脱臼、それから神経性の痙攣性彎縮、先天性彎曲手等は同じく廻前といふ位置をとつておるからそれを區別しなければいけません。只先天性の彎縮だけならばマッサージのみで癒るものであります。それから指に多いのは拇指の内轉屈曲位彎縮であります。主に拇指を強く握つて開かぬもの、これは、無論掌の皮膚が短縮してゐる者もあります。従つて整形手術を要するといふ程度のもありますけれども大抵は指を引伸ばせば伸びるものであります。それ等の畸形を矯正するのはマッサージだけ行ふのでなしに矯正した位置に拇指を置くといふ事が必要であります。それには綿塊やゴムマリを握らせておくといふ様な事をするのが矯正といふ上から大切であります。それからこの下肢の方では先天性の彎縮がよく股関節にやつて來ます。この先天性股関節彎縮といふものはこれは多くは屈曲内轉位をとつてゐます。足が伸びないで曲つてゐます。この際に、股関節の先天性彎縮は、先天性の股関節脱臼を合併してゐる場合が多いのであります。

下肢に於ける先天性彎縮は下肢全體が彎縮してある場合もあるし、膝関節と足関節に先天性彎縮があるといふ場合もあるものであります。であるから股関節の先天性彎縮、膝関節の先天性彎縮及び足関節の先天性彎縮が別々に或はかたまつてくる場合があるのであります。この際、股関節の彎縮で注意しなければならぬ事は先天性股関節脱臼が合併する事はお話しましたが、殊に初生児の先天性股関節脱臼に於ては、伸展位をとります。眞直に伸ばした位置に——伸展位に彎縮をしてゐる、つまり屈曲も旋轉も出來ない様な形、伸びた形になつて居るのであります。膝関節では、これも伸展して眞直になつてゐるが、或は前翻して居る、足関節では鉤足を呈してゐるのが普通であります。つまり、膝を眞直ぐに伸ばしてゐる曲げやうとすると抵抗します。そして下肢を曲げ様とすると曲らないのであります。これが先天性股関節脱臼をおこしてゐるのであります。かういふのに遭遇すれば、股関節脱臼であると診断して差支へございませぬ。何故かういふ位置を取るかといふ事に就ては色々と調査して見ましたが、我々はとに角來た患者を診るだけでありますから、その患者の経過に就ては全く不安定

なものであります。色々小さい患者——生後間もない二日目邊りから診てゐますが——。凡そ百以上の初生児の先天性脱臼患者を集めて比べて見ると始めの内は屈曲位彎縮をとつてゐるのが多いのであります。それが十日か二十日以内に伸展位になつてきたのが多い。従つて、十日か二十日以後の子供には屈曲位彎縮といふものは殆どないのであります。屈曲位彎縮であつたものが變つてきたものであると思はなければなりません。何故變るか、これは第一の畸形の所でもお話しした通り、かういふ子供は體質上劣性であり彎縮になりやすい體質をもつてゐる、従つて外力によつて變形し易い、どんな形にでもこんな子供には形を與へやすいのであります。これは私が以前にもお話しした通りであります。その爲に外に出てから外力の働く主なるものは、この、むつきの巻き方でありませぬ。むつきの巻き方が京都地方に於ては誠に緊縛されてゐる。お股の間にはせまい布を挟み足を眞直にのばして下肢全體を襪襪でキリ／＼巻いて其の上を腰紐で縛つてゐる、念の入つたのは巻蒲團で巻いてゐる、その上まだ念の入つたのは状態に入れてゐる。

(笑聲)

その状態もゆるやかであればよろしいが……であるから、これによつて屈曲位攣縮が伸展位攣縮に變化したものであると私は考へるのであります。その伸展位攣縮を治療するに當つてはどうしたらよいかといふと、先づマッサージをするによろしい。先天性攣縮であるからマッサージをせねばなりません。よく田舎から来る斯る患者で膝が曲らないから膝を曲げ様として、腰の關節の事は分らずに唯膝を無理に曲げ様として、大腿骨に骨折を起して來るのがあります。初生兒の先天性攣縮は矯正に暴力を用ひるのは絶対にいけない。多くは攣縮の方が骨より強いから、強力を用ひたならば筋が断裂して延びる前に骨が折れますから……。先天性攣縮を癒すのに暴力を用ひてはいけません。膝が先天性攣縮で曲らなくなつてゐるのはほつておいてもよろしい。その時は腰の攣縮を癒せば膝は自然に、ほつゝその内に癒つてくるものであります唯膝だけを揉んだりして居てはいけない、腰を運動させる様にすればよろしい。これは少し經驗するとよくわかりますが腰さへ癒せば膝はひとりで癒ります。であるから先天性の下肢の攣縮は腰を癒さなければなりません。それに股關節脱臼が伴つ

てゐる場合には、第一に股關節の脱臼を癒さなければならぬ、そうすれば總ての下肢の先天性攣縮といふものは皆癒つてしまふのであります。故に此場合には股關節に脱臼がないかといふ事を考へなければなりませんから充分に診察する必要がある。此畸形を運動法或はマッサージ等によつて解消しやうと務むるには腰部のマッサージ及下肢の矯正運動法をやらなければなりません。大體それによつて先天性の攣縮が去れる場合には股關節の脱臼も自然に癒るものであります。これはおかしな様でありますが澤山其例はあるのであります。我々の所で兩側の先天性脱臼であるといふ診断を下しても直に治療をするのがいやだといふのがあります。そのまゝにしておくと一年後には一側の脱臼が癒つてゐるといふ様なものが澤山あります。脱臼と、先天性攣縮が合併してゐる初生兒に於ては先天性攣縮が癒ると同時に大部分の脱臼も自然に癒るものであるといふ事が出來ます。先天性攣縮も、先天性脱臼といふものも或る者は自然に癒る経過をとるものでありますからこれを治療するには、自然に癒る法則をよく研究して、天然に癒る様な法則に則つて治療したならば癒るにきまつてゐる、それを唯

眞似をしてやればよいのであります。それであるから、實際先天性股關節脱臼といふ様なものを癒すにはその天然に癒る様な形に置いて治療して行く事が必要であります。これが合理的であると思ふのであります。先天性攣縮の話は今申しました通り、二次的にきた畸形の内が一番多いのでありますから、これは早く胎兒を外力から解放して自由な姿勢を與へてやるのが一番よろしい。抑へつけるのが最もいけないのであります。次に胎兒が虚弱な場合例へば胎兒が病氣にかゝる、或は妊娠中に母體が傳染病にかゝるとか、或は梅毒、骨軟化症にかゝつた事があると胎兒に影響を及ぼして色々の畸形がおこります。これは無論、母體それ自身に責任があり、母體自身にその病源となるべき原因があるのでありますから、これを速かに妊娠以前に於て癒しておかなければこれは豫防といふわけにはゆかないのであります。又畸形が成立するにつきましても既にその子供が生れたならばその方面の治療を施して、甚しい畸形が現れない様にする、それよりほかに豫防法がないのであります。

それから、分娩時に發生する畸形。これは分娩時に發生

したものであるから嚴重に云ふならば先天性とは云へないのであります。先天性と後天性の間であります。これは前にもお話しした様に、斜頸が分娩時に於て筋肉が断裂されて出來る場合がありますから分娩時にはこれを注意しなければなりません。この斜頸といふのは髻位が多い、大部分の斜頸の子供は髻位で分娩の時頭が後から出るものであります。多くの髻位の子供は胎生期に於ては頭を横にしてゐるのが多いから、頸部が肩胛部に壓迫されてゐるのが主な原因でないかと思ひます。それから分娩時にあつて、分娩が困難で鉗子分娩をやると腦出血をおこしたり、頭蓋腔に出血をおこしたりする。是はリットル氏病の原因になるといはれてゐます。豫防としては頭蓋に傷をつけない様にやつてほしいのであります。それから肩胛部麻痺或は上肢麻痺があります。出産後上肢が動かない様な場合、初生兒の肩胛部麻痺といふのがあります。これは、この肩胛部の膊神經叢が出産の時外傷を受けてそして肩胛部に麻痺をおこしたとか考へられてゐます。その外、肩胛部に於て、上膊骨の上端(頸部或は頭部)に外傷を受けた時、例へば上肢を分娩時に無理に引張つた時に、上膊骨の上部に外傷を受け

る。その外傷はつまり肩胛部の外傷であつて、その爲に上肢が動かないでゐるのがあります。これは麻痺でない、外傷による癱瘓性攣縮によつておこるのであります。麻痺でないがやはり初生児の肩胛部麻痺と云はれてゐます。故に分娩時に上肢を傷けて麻痺させぬ様につけなければなりません。そのほか分娩時には色々の骨折をおこす事があります。これは今言つた様に、上肢を出す時には上膊骨に外傷を受けるが、下肢を出す時、下肢の大腿骨に骨折をおこす事があります。無論分娩の際には皆さんがよく知つておつて出来るだけ鼠蹊部の方に指をかけられてゐるが、するんゝと滑るから大腿骨に力が入る、いつれにしても過ちによつて出来た骨折であるからして、これは外傷である。

直ぐ手當をしなければなりません。初生児は大人の様には、又大きな子供の様に、骨折の手當に繃帯するのは仲々面倒であります。従つて放任されやすい。それで曲つた位置にくつついてゐるのが澤山あります。であるからこれを、骨折してゐるのは正しく固定し、眞直な位置に接合する様に考へます。でないと後で大腿骨が曲つてゐる時にはこれを矯正するのは容易ではありません。再び骨折をおこしてこれ

を正しく癒さねばなりません。

先天性の畸形でも分娩後に時を経て初て現れる色々の畸形は其處置が後天性の畸形と約同じ事でありますから、今此所で特別に申し上げません。で、今日私は主に初生児に見られる先天性畸形の事をお話して、それは皆さんが一番先に見附ける機會を持つものであります。その内には適當な手當をすれば畸形にならずに済むものが澤山あるから、早めに手當をしてほしいのであります。甚しい畸形にならずに済みます。それが畸形の豫防法であるといふかういふ、事を皆さんにお話したいと思つて今日、わざ／＼こゝに來た次第であります。御靜聽を感謝致します。

## 乳幼兒保護實際の指導

大阪朝日新聞社  
社會事業團 眞嶋智茂子



今日はこちらの會長さんから乳幼児保護の實際に就て私に何か話をする様に仰いました。私段々考へます時に却つて私の方が皆さんから御指導を受けなければならぬ事が澤山あると思ふのであります。それは私自身長い間子供の方面に働かして戴いて居りますけれども歸つてから六年にしかありませんので、日本の氣候・風土の事を考へます時に、大變考慮しなければならぬと云ふ事は常に私の頭にあるのであります。私の話の中に或ひはバタ臭ひ話が入つて居るかも知れませんが、それは御了解を願ひたいと存じます。

この五月の大會に「母性及び乳幼児保護」に就て宣言されましたのは大變結構な事と、私はその時に參席を許されまして、感謝して居るのでございます。

現在の日本は世界のどこにも負けない文化を有して居り實に偉いものであります。けれども悲しい事には乳幼児の死亡が非常に多いのであります。澤山生れるから澤山死ぬのだと云ふ人もありますが、澤山生むと云ふ事は母の健康がよいから生れるのであります。それであるのに死亡率が多いのは哺育する母に正しい知識が無い爲であります。西

洋の文化が入つてから我々の國が外國のものを取り入れた爲に死亡率が殖えたのであります。それは母乳營養が無くなつて行くからであります。之を指導すべき者が保護すべき者が、牛乳や粉ミルクを赤ん坊にあげようと云ふ事に原因して居るのであります。日本の赤ん坊は生れた時は八百目位あります。多いのになると一貫目からある赤ん坊があります。(これは今日聞いたのであります)それが二、三ヶ月になると反對に生れた時よりすつと目方が減つて居る事があります。健全な赤ん坊が二、三ヶ月を経て體重が減ると云ふのは母乳の營養が少くないからであります。これから三十年四十年と人工營養が盛になつて行つたならば、世界に誇つて居つた日本人の體力が段々弱つて行くと云ふ事は過言ではないと思ひます。

お母さんの乳は血液の變化であります。その乳を飲ますには母の忍耐力が必要であります。それは責任ある熱のある行爲となるのであります。乳が出なかつたら牛乳や粉ミルクがあると云ふ事は意志が薄弱である。日本人が身體が強くて責任觀念が強い、自分の身を捨て、國を護ると云ふ大和魂を持つたのは母乳營養の賜であります。日清戦争、

日露戦争、世界の大戦にも勝つたのは母乳養育の結果であります。現在世界各國は乳兒の死亡率が低下しつゝあるものでありまして、ニュージーランドは千人に對して三人であります。先天虚弱兒は救ふ事が出来ません。先天虚弱兒は日本も諸外國も餘り變りがないのであります。それは何故かと云へば母の體質が悪いからであります。それは昨日のお話の様に斷種しなければならぬと云ふので、ドイツではそれをやつて居ります。が後天虚弱兒と云ふものは保護すべきその人の覺悟一つにあるのであります。ニュージーランド、米國、英國に於て乳兒の死亡率が低下したのは誰の力であるかと云へば、——アメリカは御承知の通り産婆があります。——産婆の努力と公衆衛生の科目に産前産後の衛生の事に就ての講義があり、その普及に努める人の努力の結果であります。もう一つは女學校で育兒、衛生學の方面を重視する事になつてから常識化された爲であります。看護婦産婆は特殊の技術を要しますが、衛生學、育兒學の素養がなかつたら恥とせられて居ります。我國に於ても一般に普及して看護婦、産婆、保母の資格があつたなら

ば、段々一般婦人の常識的知識となつたならば、歐米諸國の様に死亡率が少くなると思ふのであります。死亡者があつる以上は罹病患者があるのでありまして、虚弱兒童が數千、數萬、何百萬とあると云ふ責任は一體誰にあるのでせう？ 生存競争に負けて死ぬ者はそれでよろしいが、半身不隨、處弱國民が多くなつたならば國家はそれを扶助して行かなければなりません。大變なお金がかかりますし、國が弱くなりなす。乳兒の死亡率より虚弱なる身體を以て成長する國民の事を考へると非常に重大な問題であると思ふのであります。日本のお母さんが弱いから虚弱な子供が出来ると云ふのは少なく、後天性のものが多いのであります。この原因がどこに存するかと云へば、それはお母さんに育兒の知識が無いからだと思ひます。それで乳幼兒の相談所はありますが、未だ日本には産前産後の保護機關として妊産婦相談所と云ふものがあります。この妊産婦相談所が出来て普及したならば、やがてこの乳兒の死亡は非常に減じ半數或ひは1/4となり遂には全く無くなると思ひます。私の願ふのは病氣をしてからそれ醫者よ博士よと騒ぎ、又は神さんに平癒の願をかけても效能がない、それ

よりは病氣にかゝらない前に豫防しなければならぬと云ふ事なのです。その爲には妊産婦相談所が非常に必要であります。胎兒の位置が悪いとか、腎臟病に罹つてゐると云ふ様な事ばかりでなく母體の健康、日常の生活に對して指導しなければなりません。母の覺悟精神上的の指導が非常に必要であります。早期に病源を發見したり、さう云ふ知識を母親に與へ指導する事が必要であると思ふのであります。これは産婆諸姉の活動に俟つべきものであると思ひます。それには巡迴産婆や囑託産婆がもつと、普及しなければならぬと思ふのであります。

それから分娩に對する保護と云ふ事が必要であります。これは段々日本に産院が澤山増えて行くから結構であります。家でのお産は家族と同居の關係上氣兼ねをして睡眠が出来ません。人手が足りないので手當が充分に届きませんから産後の肥立が悪いのです。皆さん私より深い經驗がおありの事と思ひますから、さう云ふ話は止めますが、昔から産後に得た病氣は一生癒らないと云ふ事を聞いて居ります。故に産後の産院が普及して分娩後の休養を充分にさせたならば産後の回復が順調に行くと思ひます。安直に入

院出来る處が澤山欲しいものです。分娩してから一週間の間に正しい習間をつける事が出来ます。自分の家であれば生れてから一週間や二週間の中に規則正しい習間をつける事は出来ません。産婦に心身共に安心を與へて分娩させ明らか産後の休養をさしてあける事が必要であると思ふのであります。勤勞婦人に對してはもつと保護が欲しいと思ひます。只今の日本はたゞ學校の先生にのみ産前、産後の休養の時間が與へてありますが、他の勤勞婦人に對してはさう云ふ法律の規定が設けてありません。工場や色んな方面に働いて居る者は休めば自分が失職しなければなりませんから身體の爲に悪い事は知りつゝ、充分の休養をしないで働きますから身體が弱つて可愛い子供を遺して死亡する人が澤山あります。お産の時に亡くなりませんから統計に表はれて居りませんが若い婦人の死亡にはさう云ふ事が原因で亡くなる人が多いのであります。勤勞婦人に對する母性保護の施設をあなたの方に御願ひしたいと思ひます。學校の先生ばかりではありません。全ての勤勞婦人に對して母性保護の法律は設けらるべきもので、乳兒の保護と云ふものには母性の保護が必要であります。歐米諸國では乳兒を保

護する爲には母性の身體を保護しなければならぬと云ふ事で、産前産後の休養に對して國家がその費用を支給して居ります。現在の日本で國家が之を支給すると云ふ事は困難であります。工場や諸團體を經營する人がそうしてやらなければなりません。この母性保護と云ふ事に對しては女性は女性同志で大いにこの運動を促進してあげなければならぬと思ふのであります。

それから次に乳兒の死亡率がどう云ふ事に原因して居るか云へば次第に母乳榮養が薄らいで混合榮養、人工榮養になつたからであります。乳を飲むと云ふ事は可成りの努力を要するのですから、骨を折つてお母さんの乳を飲むよりは子供は飲み易くて味のよい瓶から容易に飲める乳を好む様になり、段々人工榮養になつて、その結果は體質が弱くなります。人工榮養の子供は乳兒傳染病に罹り易いし、麻疹、百日咳、榮養不良になります。又人工榮養の子供は肺炎に罹り易くて死亡率が高いです。その他デフテリア、消化不良、榮養障礙から脳膜炎になり、神経系統の病氣を起します。さう云ふ事が多くなります。それから春期發動期に於て不良少年、少女となり精神異常兒、精神薄

弱兒になるのも人工榮養兒に多いのであります。外國には人工榮養兒と母乳榮養兒との比較統計が出来て居りますから明らかに分つて居ります。我國に於ては段々不良が多くなつて参りますが之は人工榮養の結果であつて、母乳榮養の非常に大切であると云ふ事を知らず様指導して行かなければなりません。

それから遺傳的素質も影響します、虚弱な父母から生れた子供はやはり弱いです。健康な男女が結婚すべきものであります。そして父よりは母體の健康状態と云ふ事に注意しなければなりません。女が結婚前は非常に丈夫であつたが、結婚してから弱くなつたと云ふやうな場合、その原因は性病に起因して居ります。でありますから我々は性病學を深く研究し、早く發見してそれを治療して行く事にしたならば、さう云ふ虚弱兒は少くなると思ふのであります。

それから心勞の爲に弱くなる事があります。過勞の結果罹り易いのは結核であります。日本に結核が多いのは結核菌を持つて居る人に接したから肺病になると云ふ事のみが原因ではありません。心勞から食欲不振になり、過勞的になつて虚弱の身體になると云ふ事も起因するのであります。

す。乳兒を保護すると云ふ事から母性の健康と云ふ事を注意してやらなければなりません。

ですからこの乳兒の死亡を豫防する方法としてどう云ふ風にすればよいかと申しますと、妊娠中の保護、殊に皆さんにおいても御願ひする事は母自身の乳房の保護であります。それは乳兒を哺育する唯一の武器であるからであります。若し乳嘴の發育が不完全であつたり扁平或ひは小さかつたりすれば折角大きな乳房でありまして子供が乳を吸ふ事が出来ません。ですから乳の形よりも乳嘴の形に私は注意して居ります。では發育不善の乳嘴に對してはどう云ふ事をすればよいかと云へば乳嘴のマッサージによつて善く致します。妊娠中に乳房の保護を致して置きますれば後天性の處弱の或る部分は無くなつてくるのであります。故に乳兒死亡は乳嘴の發育に原因して居ると申しても決して過言ではありません。

第二には分娩、産褥の保護であります。日本は非常に家族制度を強調する國であります。その家族の人達に信仰があれば——神道でも佛教でも何でも宗教觀念が深くあれば——紛糾は起らんと思ひますが、産婦の心身を保護し善導

すると云ふ事が、子供が生れてから母乳の分泌の經過に非常に重大な關係があると思ひます。この分娩、産褥の保護と云ふ事を皆さんに御願ひしたのであります。

第三には消化器及び呼吸器の疾患の豫防であります。消化器の方は非常にむつかしいのであります。日本は好まな氣候に生まれ日の當りも好いのであります。湿度が高い爲に氣候の變遷に伴ひ、その調節を取る事が大變むつかしいのであります。子供に感冒をひかさない様にすることはなかつてむつかしいですが之を衣服の改良に俟つたならば出来ると思ふのであります。縮緬の着物を着せて喜んで居る母親は澤山ありますがその氣候風土に合せて衣服の改良を計ると云ふお母さんはなかつてありません。知識階級のお母さんでも全然客の方があります。西洋の着物を真似るならば自分の國の氣候、風土を考へて京都は京都、九州は九州とその土地によつてその調節を計る事が肝要でありまして、その土地の風俗よりも先づ氣候を重大視しなければならぬと思ふのであります。温度の調節に注意したならば感冒をひくと云ふ事は少なくなります。又日本の子供が感

胃をひくのは鼻腔から呼吸する習慣がついてゐないからであります。なぜ鼻から呼吸する習慣がつかんのかと申しますと、それは鼻孔の掃除をしないからであります。分娩後すぐ子供の鼻の孔を掃除してくれる母親があるかと思ひます。これは大きな問題であります。日本の母親は嘔をすると思ひますが、鼻の中に碳酸液を浸した脱脂綿を入れてやりますと嘔をします。外國人は嘔をすると思ひますが、朝晩鼻孔の清掃をすると思ひます。大人は鼻がつまると自身で鼻かみますが乳兒は自分でする事が出来ません。感冒をひき易いのは鼻がつまるから口をあいて呼吸する。それで扁桃腺が紅潮、肥大するのです。鼻孔の清掃と云ふものは小さな時から母がその習慣をつけましたなら感冒をひく事が少なくなりまます。これは私自身實行してやつて居ります。呼吸器病の豫防をするのも上部氣道の保護をしなければなりません。夜間も口から呼吸せずに鼻から呼吸する習慣をつけて置きますと氣管支カタル、肺炎をしません。これは小なる事ではありますが予防の一つとして實行していただきたい事です。日本の母親

は餘り巻き過ぎますから運動が出来ません。四肢の運動が出来ないと血行障礙が起り。乳を飲ましても消化する事が出来ませんから、段々抵抗力が弱くなつて病氣しやすくなります。四肢の運動が充分に出来る様にして置くと思ひます。皮膚が丈夫になります。そして寒さに遭つても感冒をひきません。それには衣服の改良をして乳兒の保護をしなければなりません。二、三歳の子供に洋服を着せても腰の下をぐるぐる巻いて拘束して居ります。拘束すると呼吸器、消化器が弱くなり罹病乳兒の数が多くなつて死亡率が多くなる事の起因であります。それには妊婦健康相談所と同時に小兒の健康相談所が大切であります。これは各府縣に於て醫者が主催してやつて居ります。聽心器を當てなければ氣がすまん連中がやつて居るのです。外國ではこの健康相談所の仕事は産婆、看護婦がやつて居るのであります。つまりあなた方の様な深い研究を積んだ人が主となつて、その仕事をやる、そして病氣が軽い病氣であつたならばかう云ふ手當をせよ、重かつたら醫者にかゝれと云つてやります。日本ではそれが行き届かずに小兒科の醫者が診察しま

すからなか／＼普及しません。お母さんの方も子供が病氣ぢやないからと一度きりで、行かなくなりまます。これが歐米諸國の様には産婆や看護婦の仕事に經驗のある人が主としてやつたならば次から次へと順々に指導して行く事が出来まます。お母さんに對して育兒の知識を與へて指導する事が出来、次の週間には些細な病氣であれば早期に發見して母親に手當を教へる事が出来まます。例へば皮膚科の事でありましたならば「かう云ふ藥をつけなさい」と教へたらおできが擴がらずに一週間でよくなりまます。又咳や嘔が出て鼻腔に紅潮性を見、肥大發赤したならば、「かう云ふ手當をなささい」と云つて母親がそれを實行すれば三日か五日で完全によくなつて來まます。處が醫者が主となつてやつて居りますと一寸した時は「之でよろしい」と云つて歸してしまひまます。よろしいではありません、咽喉が紅くはれて居るのです。一、二度藥を塗つたり吸入をしてやればよいものでもそのまゝ歸してしまひまます。これでは結核の豫防にはなりません。私共は病氣が全身に擴がらない前に手當をする事が必要であります。そこで産婆や看護婦の手になる小兒健康相談所を普及して欲しいと云ふのが私の念願でありま

す。それと相俟つて訪問看護婦の普及が望ましいのであります。その家の家庭の環境を調べなければなりません。それから若し乳兒の母に對して經濟が許さなかつたら我々が保護してやらなければなりません。さう云ふ事を調べるのに方面委員がありますが、男の方面委員があるのは間違つて居ります。産婆が方面委員にならなければなりません。男の方面委員があるのは日本だけあります。婦人の方面委員が普及すれば母性を保護し健康なる子供を生み健全なる國民に育てる事が出来、この不健康なる國民の現状を救ふ事が出来ると思ふのであります。朝日新聞社では婦人の方面委員を七年前に設けられました。それがやめになつたので悲しんで居ります。今となつて面倒臭いから廢めると云ふ事は女の誠意が無いからであります。どうしても始終母に接して色々な事を知つて居るものが方面委員にならなければなりません。男では不適當であつて、可愛さうだ氣の毒だと云ふ事に直面した婦人がやらなければ駄目であります。外國に於てはさう云ふ社會に立つて居る人が方面委員になつて居ります。これが普及發展したならば國家に對して大きな御奉公であります。子供を抱へて經濟上に

苦しむ場合、それを救ふのは我々同性でなければなりません。男の人は偉いですがさう云ふ同情が行き渡りませんから私共が母性として女性として助けて行かなければなりません。それには保健婦を養成して、それで仕事をしなければなりません。公衆衛生の知識を有する醫者壹人に對して保健婦十人でやつたならば完全に行き渡るのであります。

それから母乳榮養がなぜ大切であるかと云へば母の血液で養はれたものには、母の血液の變化した乳が大切であります。それが一番適して居ります。この母乳榮養を獎勵して行つたならば、やがて乳兒の死亡率は少くなると私は信じて居るのであります。あなた方も度々御經驗になつたと思ひますが、病氣に罹つて助かつたと云ふのは母の乳を飲んだ子供であります。例へば百日咳で死んで行くと云ふ子供は人工榮養の子供に多いのであります。それを見ても如何に母乳が大切であるかと云ふ事が分ると思ひます。又母の乳で育つた子供には神經質が少ないのであります。罹病者はいつでも人工榮養の子供が多いのであります。これはどうしても明治初年の時代に立ち歸らなければなりません。

くなるのであります。母乳の大切な事は私が申す迄もない事でありますから皆さんから母親にあなたの乳でなければならぬと云ふ事を強く云つて頂いてお指導を御願ひしたいと思ひます。

若しもその母が健康であつても乳の分泌が少ない場合はどう云ふ方法をしなければならぬかと云ふ事に先立つて、第一に子供の保育に就いてもう少し科學的の考へ方をしなければならぬと思ふのであります。

私は體重に對する榮養カロリーを喧しく云つて居りますが、之を規則正しくやつたならば保育上失敗がないと云ふ事を確信して居ります。皆さん御承知の通り體重に對して要するカロリーを一番最初に母に教へ込まなければなりません。私の方針は體重一キロに對して百カロリーの(生後一ヶ月から四ヶ月の間は)榮養が必要であります。

處が母の乳にどれ位のカロリーがあるかと云へば母乳百グラムに對して七〇カロリーあります。さうするとこゝに假に三・五二〇キログラムの赤ん坊を産んだ時には五〇〇グラム一日分泌量があれば充分であります。皆さんのお手許に體重計がありますから母乳分泌の測定は容易であります。

ん。西洋文明の一つとして日本に人工榮養が入つて來た爲に——母乳の代用品が入つた爲に——身體が虛弱になつたと申しても、決して過言ではありません。今年の徴兵検査に於て壯丁の體質が一番低下して居ります。その低下して居る原因を調べると丁度歐洲大戰當時に出來た子供でありまして、その時分は黄金の波が日本に押し寄せて來た頃であります。人々は虚榮になり享樂的となつた爲に活動寫眞に行く者が多くなり、芝居に行つたりデパートへ行く事が多くなつて子供の事はうちやらかしであります。母親は自分の乳を與へずに牛乳や、粉ミルク、コンデンスミルクを用ひる様になつたその結果腺病質の子供が多くなり體質が悪くなつたのであります。

今日各方面に於て結核の豫防、性病に對する治療を一生懸命にやつて居られますが、それを考へると母乳を飲ませない爲でありますから、母乳を獎勵しなければならぬと思ふのであります。乳幼兒の保護實際の指導と云ふ事に就ては母乳を出さなければなりません。母乳は出るものであります。出なければ代用品があると云ふ考へから皆さんの心持が輕薄になる爲に失禮であります。乳が段々少

す。即ち乳を飲ませる前に體重をはかつて置き飲ませてから再びはかれば何グラム飲んだかと云ふその差が必ず出て來ます。そして一日に何回飲ませたかと云ふ事によつてその量が數字となつて表はれて參ります。生後一ヶ月から四ヶ月の間は體重一キロに對して百カロリーの榮養が必要なのでありますから三・五〇〇キロの體重があれば三百五十カロリー榮養が必要なので、その母の乳は五百グラムあればよいと云ふ事になります。この割合を頭に置いたならば間違ひありません。乳の分泌が少なくても必ずしも牛乳やコンデンスミルク、粉ミルクをやらなくても日本人は米をたべて居るのでから重湯を薄く溶いて少ないだけ補充すればよいのであります。それを牛乳瓶でやるから母の乳を離れるのです。四百五十グラム乳が出れば百グラム重湯を補足してやります。味のあるものをやつてはいけません。牛乳瓶でやつてはいけません。それはなぜかと云へば母の乳を吸ふのには努力が要ります。子供も母も努力が要ります。その爲に牛乳瓶でやりますと吸ふのに樂な爲にその方を喜んで母の乳を吸はなくなるからであります。ですから少し位不足の乳は重湯で補足して居れば、その中にマツサ

ージによつて五十グラムの乳は回復して行く事が出来ますから……。

それから四ヶ月後から七ヶ月迄の約三ヶ月は一キロに對して九〇カロリーあればよいのです。その後の八ヶ月、九ヶ月、十ヶ月のその頃は一キロに對して八十カロリーあればよろしい。それから十ヶ月以後からは元の通りに一キロに對して百カロリー必要になります。子供は十ヶ月以後になるとそれだけの栄養カロリーが必要になつて来るのであります。大體かう云ふ風にして行つたならば間違ひありません。

この知識が母親の頭になくから乳を澤山やつて失敗したり、足りないと思つて補充を澤山して失敗する事があります。かう云ふ事も妊娠中から教へて置き、或ひは分娩直後に指導して行つたならば失敗は少なくなると思ひます。若しも乳が少なければ適當に薄い重湯をやつたり牛乳を與へる時に當つて私達はかう云ふ事を指導するかと云へば乳を飲ます事、即ち乳を吸はず事に就きまして規則正しい生活をしないと云ふ事であり、乳が出ないから度々吸はせばよく出ると云ふ事は間違ひであります。道を

歩くにしても一寸も休まずに歩いて居つたら非常に疲れるのと同じ様に、乳も始終吸はせて居ると疲勞して乳の分泌が減じますから、適當の時間休息を與へなければなりません。これが授乳分泌の第一の法則であります。規則正しく吸はず事が必要であります。次にどう云ふ事が必要かと云へば心の安靜と家庭の平和といふ事が大事であります。乳腺が或ひは乳嘴がよく發育して居つても家庭的の悩みや自分自身に非常な悩みがあつたならば、その乳は出ません。私は度々かう云ふ事に遭遇します。それから乳房のマッサージをする時に『あなたの熱心と信仰がなければ乳が出ません』よと申して居ります。母に乳を出さうとする熱心と信仰がなければ何百回、何千回マッサージをしても、栄養を攝つても注射しても乳は出ません。

私は外國で日本中よりも世界でのお金持であると云ふ家の奥さんのお産を扱つた事があります。何不自由ない全ての條件が揃つてゐるのに乳が出ません。そこで私は『大變失禮でありますがお乳の出ないのは奥さんの心が悪いからです。』と卒直に云つたら『恥をか、せた』と泣かれましたが、その後お子さんを産まれて、『三番目、五番目の赤ちゃ

んに乳を出さうと思つたらやつぱりマッサージをしなくても出て来る様になつた。』と云つて居られました。これによつても母の熱心と信仰とは出ない乳でも出る様になるのであります。それは母の決心一つであり、母の熱心一つであります。これが第一條件であります。今日あなた方にマッサージの方法を申し上げますが、それはたゞ單なる方法であつて、出すと云ふ事は母の決心がなければなりません。出すと云ふ精神がなければなりません。それで先づマッサージをする場合にはお約束をするのです。『私はマッサージの方法をお教へしますが、あなたは乳を出しますか。』と。さうでないと自分の不熱心さは棚に上げて産婆に乳が出ないと云ふ横着な母親が澤山あります。だから『出すならば教へてあげます』と云ふ事を云はなければなりません。熱心と信仰があれば無學の母でも乳を出します。田舎の車も通はないきたない處の勞働者、がさ／＼した母が度々出て参ります。そのお母さんが一回のマッサージによつて乳が出る様になり嬉しさに泣く人さへあります。これは出さうと思ふから出るのです。その反對に物質的に何不自由のない家庭の奥さんの御乳が出ない場合、家にねえ、か看護婦

を雇つてさせたらいと思つて居る様な奥さんは何百べんマッサージしても駄目であります。この子供によつて子孫が繁榮するか、しないかと云ふ事になるのでありますから母の熱心と、家族の熱心がなければなりません。それに謙讓の心持ちがなければなりません。乳の出ない者は大抵嫌天下の横着者です。『お乳が出ないのはあなたの心が悪いのだ。』と云ひますと口惜しがつて出してくれます。乳が出なかつたら牛乳や粉乳、煉乳を用ひたらよいと云ふ様な横着者、非常な我儘者には乳が出ません。殊に都會生活をする若夫婦では奥さんが子供を持つと離縁される心配がないと思つてか威張る人があります。京都にも随分あり。大阪、東京にも、とても威張つてくる者があります。子供を一人持つたからと云つて威張つてゐるは駄目です。二十年後に離婚されるかも知らない。子供を弱くしたりすれば離縁になりませう。横着な氣持ちがあれば乳は出ません。謙讓な心を持つて始めて出す事を得るのであります。子供の爲に乳を出し得る第一はマッサージによつて出るのではなく母の信念によつて出るであります。母の心持ちと家庭の相互愛は母乳の分泌を良好ならしめ笑顔と明朗は

子孫への愛であり義務であります。権利のみを主張して行けばその子は弱くなり死亡して行きます。子供を産んだならば責任を持ち義務を遂行しなければなりません。よく育て強く育てなければなりません。義務の観念、責任観念を持ち、熱心と信仰があれば出ない乳が出てくるのであります。これは私がマツサージの方法を致します前に第一に皆さんに約束して戴きたいのであります。それを御願ひ致します。さうでないといふ事をして乳は出ません。簡単な事でありませんが精神上にさう云ふ覺悟が必要であります。(乳房のマツサージは後の實習に譲ります)

母乳の大切な事又その分泌の事は之位にして置きまして次は日本の子供が弱くなる原因である授乳過多の事を申とませう。これは乳をやり過ぎる事でありまして、皆さんも御承知の通り乳児が生後二、三週間から二、三ヶ月の間に授乳過多症になるのが澤山あります。二、三ヶ月後の子供にはさう云ふ症状は少ないですが……。

健康相談所に見える子供にも初めの二、三週間から二、三ヶ月の間の子供に多いのであります。子供に乳を飲ませ過ぎる事が多いのであります。これも母の頭に授乳量の知

識があつたならば、さう泣くからと云つてその度に乳の分量が足りないのだらうと思つて乳を與へると云ふ様な事はない筈であります。授乳過多症の赤ん坊はとても多いのであります。小兒科では消化不良と云ふ診断をつけられますが、母の乳を飲んで消化不良と云ふ事は飲み過ぎでありませぬ。大喰ひの事でありませぬ。赤ん坊は澤山飲んでも行儀の悪い事を言はないで醫者が消化不良と名づけられて居ります。どう云ふものが授乳過多症であるかと云ふ事を大體その徴候を母に教へる事が大切であります。

徴候の第一は頻繁なる便通であります。母乳栄養の子供は一日に一、二回多くて三回の便通が普通であり人工栄養の子供は大方一回乃至二回であります。處が過多症になりますと、おむつを取り替へる度毎に大便が出ます。そして最初は黄色便で柔らかいものですが、段々續くと緑色となり水の様にシヤツと出ます。するとお母さんはえらい脚氣に恐怖してゐて「私は脚氣ではないでせうか。」と仰つしやる。「まあ一寸お待ちなさい。」と云つて便を調べて見るとブツブツのある所謂顆粒便で白い粘液便が混つてゐます。この頃のお母さんは雜誌を見てゐらつしやいますから綠色便で

水様便で酔つばい臭ひがしてゐると脚氣では無いかと心配されます。「一體何度お乳を飲ましていらつしやいますか」と聞くと何度飲まして居ると云ふ事はつきり答へ得るお母さんが少ないのであります。これは田舎の人ばかりぢやありません。大學の教育を受けてゐる方でもはつきり云へない人があります。京都ばかりでなく大阪、東京にかう云ふ人が澤山あります。これが第一に子供に失敗する原因であります。私共は一番に何回授乳して居るかを聞かなければなりません。

第二にどう云ふ徴候を來すかと云へば一番最初は授乳の度毎に乳を出します。俗に餘し乳と云つて居りますが、それが重なる授乳との間に凝固した乳が出ます。これは酔い臭ひがします。かう云ふ事が重なる授乳過多症の大なる徴候であります。

それから第三の徴候としては體重がぐつと殖える事でありませぬ。體重の殖える平均は一週間に二百グラムが標準であります。それが二百五十グラム以上殖える様だつたらやり過ぎです。そのまゝ授乳して居つたならば下痢をし、嘔吐を催したりします。さうすると「仰つてゐた通り守らな

かつたから、かう云ふ徴候になつたのだ」と懺悔する母がおりますがこの様に標準以上體重が殖えたならば警戒しなければなりません。(乳の分量を制限する爲に授乳時間を定める事もあります)かう云ふ場合回数が多くないかと云ふ事を考へなければなりません。之をそのまゝ放つて置く」と第一第二の徴候の様に便通が頻繁となり嘔吐を催し吐乳すると云ふ事が伴ふて反對に體重が減つて來ます。

そして第四には非常に腹痛を訴へ、始終泣きます。それはどう云ふ事かと云へばガスの充満の爲であります。乳が多すぎる爲に酸化しガスが充満して苦しいから泣くのであります。泣くと母が又乳をやりませぬから益々授乳過多となるのであります。又自分の乳であつても栄養不良、消化不良の結果ひきつける事もあります。小兒科醫に浣腸して貰つたり注射して貰つて漸く癒る事があります。かう云ふ事が度々あればそれは授乳過多の爲でありますから私共はどう云ふ方法をしてやるか、どう云ふ方法を母に教へるかと申しますとその治療法は次の通りであります。

第一は出來得るならば二十四時間の母乳分泌測定法を行ふ事があります。この方法を普及さすには母と子供を入院

させる保育院(産院に附属したもの)に入院させる事が必要であります。分泌不足の場合は母と子供とを入院させてマツサージの方法を教へたならば完全に成長します。又授乳過多症でありましたら暫く一週間か二週間預つて置いたならば醫藥の治療をせずとも完全に癒ります。母乳分泌測定は時間を決めて朝六時にやれば十時それから午後二時と云ふ様に四時間置きに授乳する際にやります。そして全體の分量を合せて體重に對して要するカロリーと母乳榮養のカロリーとを計算すれば一日瞭然に判るのであります。そして澤山飲んで居るものは適量となる様に加減致します。

第二には規則正しく指導する事であり、今迄不規則にやつてゐたものを規則正しくやるのであります。若し赤ん坊が泣く時はお湯をやります。それから療法は乳を何分飲ませると云ふ様に時間を決めるのであります。すると子供は時計の様に規則正しくなつてくるのであります。そして夜間の授乳を廢止する事であり、晝は授乳時間をはつきりと三時間、四時間と決めて居つても夜之を守らないうで一晩中飲まして居る母親がありますが夜間の授乳は嚴禁する事であり、それには産後直ちに母と子を別々に

休ませる事にすると夜よく母が休む事が出来ます。かう云ふ習慣をつければ夜は飲まん様になります。

第三番目には授乳過多症の子供は母の乳をやる前にお湯(煮まし湯)をやりますと、子供の胃袋の中で稀釋する事になりますから乳をやつてからお湯をやつても飲みません。茶匙に四匙乃至八匙位をやります。その後で母の乳をやりますとそれだけ乳を多く吸はぬ事になります。即ち胃の腑で稀釋するから段々よくなつてきます。この母乳をやる前に煮まし湯をやると云ふ事が必要であります。それから便通が綠色や顆粒便、粘液便、或ひは水様便が出た場合に母に取つて非常に重大な病氣の様に思つて醫者にかゝります。するとヒマシ油をやる醫者がありますが、とても腸を刺戟してどう云ふ結果になるかと云ふ事が分ります。私は過去二十年程赤ん坊を扱つて居りますが、その經驗によりますと食鹽水を注腸してやるのであります。これは何もむつかしい事はありません。洗腸器で一合位のものを入れてやります。(一茶匙の食鹽に熱湯一合の割合に薄めたものを微温湯にさまして)すると出るものは出てしまひ腸壁からそれを吸収してその爲によくなつて來ます。決して藥

をやつて癒してはいけません。洗腸後は母の乳を制限して煮まし湯をやりますと胃袋で稀釋します。この微温湯の食鹽水で洗腸すれば大概のものが癒ります。早く手當をすれば醫藥の治療を受けなくても、この方法を二、三日乃至一週間も持續すれば自然に癒つて參ります。

それから自分の乳が悪いのか子供に合はんと云ふ母親の言をよく聞きますが、自分が生んだ子供に母の乳が合はんと云ふ事はありません。自分の血液で育つた子供に乳が合はんと云ふ事は無い譯です。たゞ腎臓病や結核に罹つてゐるお母さんの乳はいけません、特殊の病氣でない限り母の乳が合はんと云ふ事はありません。脚氣の場合でも食べ物に注意し、注射をしたり、服藥をしてゐたならばその母乳は止めなくても済んで行くのであります。授乳過多症は少ない様に思はれますが、私は八ヶ所の健康相談所を持つて居りますが授乳過多症の赤ん坊は随分澤山參ります。この授乳過多症は腸炎や腦膜炎になつてひきつけて瘦せ細ります。初期に於てかう云ふ事の知識を母に與へて置いたならば罹らなくて、すむのであつてかう云ふ病氣に罹らせるのは母の恥であります。母に保育の知識が無いからであり

ます。かう云ふ事を一生懸命にやつたならば色々な病氣を豫防する事が出来ます。

この反對に授乳不足、即ち乳の足りない場合が度々あります。その徴候としてどう云ふ事があるかと云へば(一)非常に怒りつばい、始終泣いてゐる、(二)體重が増加しない反對に減するばかりである、(三)便通が少くなり茶褐色の飢餓便が出る様になり三日に一遍しか便通が無いと云ふ様なのは授乳不足であります。この三つの徴候を御参考となすつて適合する場合大概は授乳不足であると云つても過言ではありません。

この治療法としてはやはり母乳分泌測定法によらなければなりません。そして澤山不足の場合は赤ん坊の體重と月數と榮養カロリーを合して補助榮養を與へなければなりません。その場合乳を足す時にどう云ふ事をするかと云へば母の乳を飲ましてから補助榮養をしなければなりません。これを反對にする人がありますが、さうすると段々母の乳を飲まなくなり離れてしまひます。最初母の乳を飲ませて足りない部分を補助しなければなりません。第三の方法はマツサージ、榮養、心持ちによつて一週間、一ヶ月間以内



に充分出る様に覺悟させなければなりません。マツサージをする前には『必ず乳を出しますね』と念を押してから『必ず出します』との答へを待つてマツサージをしますと必ず出ます。これは教育のあるなしに不拘、母の熱心と信仰によつて子供の榮養となる乳は出るものであります。日本には大體人工榮養が少ないのでありますが、母が死ぬか、不幸にして(授乳不可能の)病氣の場合或ひは貰ひ子の場合に人工榮養で育てます。けれども割合に注意すると成功します。が母乳で育つた子供よりは一生の健康の土臺は弱いと云ふ事は覺悟しなければなりません。母の乳を飲む事が出来ない、又乳母を置く事も出来ないものは母乳と同じ成分のものを作つて行かねばなりません。母乳に最も近い成分のあるのは牛乳ですがなぜこの牛乳を稀釋するかと申しますと母乳の中に含まつて居る蛋白質が牛乳には倍以上含まつて居ります。ですから之を1/3稀釋します。それから脂肪は母乳の方が多です。糖の成分は——乳糖の成分——母乳の方が殆ど倍近くあります。それで牛乳を稀釋する時に必ず砂糖を加へます。脂肪が人工榮養に忘れられて居ますが脂肪が足りません。日本の氣候は暑いから肝油をやつ

てはいかんと云ふ事を云はれて居りますが、人工榮養の子供は三ヶ月、六ヶ月と順調にぐんぐん太りますが一寸も緊張しません。でぶ／＼肥えの蒼白いのが多いです。それは脂肪が足りないからで、脂肪の成分を加除して行かなければならないと云ふ事を考へなければなりません。これが人工榮養に必要な事でありませぬ。

それからその次に昨日時間があれば離乳の時期に就て申さなければならなかつたのでありますが時間が無かつたので今日御話いたします。

母乳によつて七、八ヶ月迄丸々と太つて来た赤ん坊が乳離れに失敗したと云ふ事があります。生後三ヶ月以内に死亡する數と、七、八ヶ月に死亡する數と同じであると云ふ事は離乳期の知識が足りないからさう云ふ事が起つて来るのであります。日本の専門家に離乳期の材料が少ないです。

我々の親達はさう云ふ健康状態かと云へば虚弱な身體を持つて居る人は少ないです。年若い者の方が弱いです。私共の親達の年輩の人であれば三人力、四人力ある人があります。私共の母や祖母は皆忍耐、克己の精神が強いです。

そして離乳期の死亡が少ないと云ふ事には何か原因がなければなりません。その一大原因は明治の御代になつて西洋文明が入つて来たからであります。その歐米の文化をよく嚙んで消化してみずに鵜呑みにしてしまつたからです。自分達の先祖がどう云ふものをたべたか、日本はどう云ふ氣候風土であるかを考へずに外國風の離乳方法を採るから失敗するのです。その結果早く子供が出来ます。子供が多ては教育をするのに大變であるから産兒制限をする様になります。子供が次から次へと生れると本當に母が責任を持つて子供を立派に育てる事が出来ません。子供が澤山出来る人は呑氣坊であります。澤山お金のある人か、ほんやりした人が毎年々々子供を生みます。

離乳期に於て母乳をよく出す様に注意したならばさう云ふ事はないのであります。頭をよく使ふ人は一人か二人しかお産をしないものであります。ほんやりしてゐて貧乏だ／＼と口ばかりで云つて居る人は毎年子供を生んで居ります。之は日本ばかりではなく外國でもさうであります。英國でも商家の奥さんである人やほんやりして居る人や澤山お金のある方の三種に分れて居ります。

離乳期に於てはその國の氣候風土をよく考へなければなりません。外國では日光が當りませんが空氣が乾燥して居ります。日本は日光は當りますが湿度が高い。さう云ふ國に於ては三千年來御米の御飯をたべて居ります。その米の御飯をたべて居る子孫に妙なものをやると失敗します。私共も牛乳を飲んで居りますが、私共よりも強い母や祖母達は牛乳を飲んで居ません。ですから離乳期に牛乳を二回も三回もやる必要はありません。先づ我々の祖先は何をたべて居るか云ふ事を考へなければなりません。これが離乳期に一番大切な問題であります。私はいつでも我々は御飯をたべて居るのでバタを嘗めて居るのではないと云つて居ります。そして味噌汁を匙でよいから飲まして鹽辛いもの、味を教へて置きます。人生の辛い味を一番最初に教へて置きます。それを最初にウエーファスなんかをやりますと赤ん坊が成長してから甘いものが好きになります。之は今日から實行なされば四五年の後には分ります。辛いものを與へれば辛いもの、甘いものを與へれば甘いものが好きになります。ビスケットやウエーファスをやるより味噌汁をやる方がよいと申しますとびつくりなさいますが、味噌汁

の味を一寸教へればよいのであります。人生第一歩の味を教へて置けば、三つ子の魂百迄で、これは大切な問題であります。鹽辛いものを好む者は全體に丈夫であります。甘いものを好きな者は弱いです。甘いものをたべると酸化して骨が軟かくなります。成長盛りの子供に糖分を澤山與へると骨の成分を軟かくします。鮎玉みたいに伸びてしまひます。チョコレートやキャラメル、グリコを拵へる會社の社長は私の國の人で近所で同窓生でありますから、宣傳してやらなければなりません。宣傳が出来ないので、私はいつでもあなたと敵にならなければなりませんねと云つてゐます。外國人は子供に甘いものは食後にやつて居ります。處が日本では食間に一箱も與へて置きますから子供は御飯をたべずに甘いものを好むやうになつてしまひます。殊にいけない事には一粒三百メートルを走る榮養價がある等と書いてありますが、之等は外國から來たもの、缺陷であります。外國人は食間には一寸もやらないで食後に五つ六つやつて居ます。『小さな時にはウエーファスを二、三枚おやりなさい』と云ふ事は健康相談所の醫者が云ふ事でありませんが、そんな事を云はないで『味噌汁を飲まして下さ

いと云つてくれた方がよいのにと思ひます。又ウエーファスの代りに錫を大きく書いてそれをしやぶらせたらよいと思ひます。錫には燐が多いから神経系統によろしい。夜泣きの子供が夜寝むる様になります。昔の事を繰返すのではありませんが、昔からやつてゐる事はよく考へて行かなければなりません。そして氣候風土の事も考へてやらなければなりません。そして人生の第一歩を踏ましてやらなければなりません。

母乳は大切であります。七、八ヶ月になりますと第一に内股が非常に柔かくなつて皮膚の緊張が弛緩して顔色が蒼白になります。これは母の乳ばかり飲んで居るとさうなるのであります。それは母の胎内に居る時から戴いて居る肝臓の中にある鐵の成分が段々無くなるからであります。肝臓の働きが一番大切な鐵の成分が無くなるから蒼白になるのです。

第二番目には七、八ヶ月になると赤ん坊は這ひますし、立ちますから榮養が二倍要ります。それに就て知能の發育が伴ひますから母乳だけでは榮養が足りませんから體重が増えませんが、そして血色が悪くなり皮膚が弛緩します。

さう云ふ徴候が表はれてからそのまゝ、輕視して置きますと疳高くなり、夜も晝も寝まないと云ふ様な子供になります。さう云ふ時はやはり何が一番大事かと云へば今迄飲んで來たものが母の乳であるからやはりさう云ふ様な水分のあるものをやらなければなりません。どう云ふものが一番大事であるかと云へば我々は毎日三度々々食事をして居ります。その主食である米の粉の汁が一番適當であります。一番よいのは胚芽米の米の粉であります。私は最初の二、三ヶ月はビオスモールを使つて居ります。これを用ひますと重湯をとつて薄いと濃いと云はなくても適宜の濃さ、薄さにする事が出来、平均した分量が出來ます。私は和光堂の主人と知り合ひでも何でもありませんが胚芽米を原料として作られてゐますからビオスモールを使つてゐます。この胚芽にはビタミンBがあります。ビタミンBが不足すれば成長を助けません。母の身體にビタミンBが不足すれば脚氣になります。ビタミンBが不足すれば子供が發育しないと云ふ事は皆さん御承知であります。それで私はビタミンBの含まれて居るビオスモールを御紹介致します。五拾錢の罐が一つあれば澤山です。母の乳の次

に子供に適するものはそれであると信じて居ります。これを一ヶ月か二ヶ月程やります。鐵分質の水分を多くしたものを與へればよいのであります。その次にはやはり母の乳に似たもので牛乳と米の粉とで拵へたものをやります。兎に角離乳期には母の體質に適するものをやつたらよいのであります。乳を飲ませる時には母はカルシウムの成分のあるものをたべなければなりません。骨を丈夫にする爲に……ビタミンBが足りない乳兒脚氣となり成長を助けません。母の乳に似たものは牛乳、その次に動物のもので一番近いものは卵です。白味ではなく黄味の方が早く吸収しやすく牛乳より安價に得られます。牛乳が無い村でも卵のない村はありません。米の粉牛乳や卵黄で離乳期の食事を拵へて、それを少しづつ、食べさせる習慣をつけて行つたならばよいのであります。一ぺんに牛乳を飲まさうとして十時と四時とは母の乳の代りに牛乳にすると云ふ様な事をすると失敗します。授乳分泌不足の場合には母の乳を飲ましてから補足の榮養をおあけなさいと云ひましたが、離乳期の食事は牛乳たべさせてから母の乳をやります。それから離乳期には哺乳瓶で與へてはいけません。コップ或ひは

匙であります。これはたべると云ふ食事教育でありまして、親も之を努力しなければなりません。さうでなければいつまでも親の乳を離れません。二つ三つになつても親の乳を離れなくなります。コップ或ひは茶呑茶碗で飲ませる、匙でやる食事教育をしなければなりません。が之はなか／＼困難な事でありまして、お母さんは素人だし、子供は始めての事だから困難でありますが努力一つですぐ馴れます。馴れるのに十日もかゝるものがありますが飲まないからと云つて放つて置いてはいつまでも母の乳を飲んで居ると云ふ事になります。離乳期にはさう云ふ注意をして戴きたい。それから第三番目には乳児の健康状態を條件にしなければなりません。いくら月数が八ヶ月であつても九ヶ月、十ヶ月であつても體重が四ヶ月位であつたならば母の乳は離されません。この様な子供には母の乳を多くやつて離乳期の乳を少なくしなければなりません。子供の發育が悪いのは母の食物が悪かつたり。健康状態が悪かつたりするのですから補足の方法を考へて、離乳期の前に發育をよくする様に考へなければなりません。

それから離乳を夏始めてはいけな事は皆さん御存じの

通りであります。

それからもう一つは乳離れの前に四時間毎に規則正しく授乳する習慣をつけて置かないとなか／＼むつかしいです。さう云ふ事を私共が注意する事が必要であります。

それから母に注意しなければならぬ事は乳房の保護の爲に急激に離乳をしてはいけません。急激に止めますと乳房をよよくやりますから。少しづつ、やれば漸次離して行くものであります。漸次馴れますれば母も子も困難でなしにたべる時間が長くなつて、飲む時間が少くなり、母の乳を段々離れます。急激に離乳しないのは乳房を保護する爲であります。

それで先程申しました様に重湯、(胚芽米で出来て居るピオスマールに限りません、胚芽米で拵へてあるもので結構です。)それを匙一匙、水三勺の薄いものから段々濃く致します。

次は乳粥、牛乳と米の粉(俗にじょうしん粉と云つて居りますが、お米を粉にしたもの)とそれに砂糖を加へて糊の様によく煮ます。さう云ふものを匙からやります。一回の分量は一匙からあけて行つて下さいと申して居ります。

その分量を申し上げますと、牛乳五勺に對してじょうしん粉茶匙すりきり三倍、砂糖が半匙或ひは一匙、それをよく練つて、糊を練る様に焚きますとどろ／＼の糊が出来ます。之のカロリーは百二十カロリーあります。これを拵へて最初は一匙か二匙を與へ、それに馴れて來たら段々量をふやす事にして戴きます。牛乳を五勺づつ、買つて度々する事は大變でありますから粉ミルク一匙にスリ粉一匙を度々やればよろしい。そしてよくたべれる様になつてから牛乳にしてやります。それからおぢや粥と云ふのはお米に昆布と煮干のスープを入れておぢやにしたものであります。このだしには昆布と煮干の外に人参とかキャベツとか玉葱とか馬鈴薯等を入れただしを拵へてやりますと植物性のカルシウムが入つて居りますし、燐の成分もあり、その他全ての成分が含まれて居りますから、さう云ふだしをかけて作つてやりますと、我々の先祖傳來の生活に適して居る食物となります。さう云ふ柔らかいものを少しづつ、やります。野菜のスープもわざ／＼作らなくても毎日どんな御家庭でも野菜を用ひない處は無いと思ひますから醬油を加へる前にその汁を取つたらよろしい。普通の家庭で煮干やだし昆

布を使ひませんが之はもつと普及しなければならぬと思ひます。煮干やだし昆布が入つて居りましたらわざわざ子供の爲に野菜スープを作らなくても野菜の煮干をする時に野菜スープが取れます。

それから牛乳の無い處で離乳期にどう云ふものが代用になるかと云へば卵の黄味で拵へます。卵黄一ケにウドン粉二匙計つて水五勺を入れよく練ります。ウドン粉を水でよく練つて置き卵の黄味をよく溶した處へウドン粉の汁をマヨネーズソースを作る時と同じ様にタラ／＼と、落してよく練りますととてもよいキナ色の乳が出来ます。それに少量の食鹽と砂糖を入れます。惣を云へば乳酸カルシウムを入れますと牛乳一合の成分になります。これは田舎の牛乳の無い處や、牛乳の嫌ひな子供があつて飲まない時はこの方法が大變よろしい。又生後五ヶ月で乳が足らんで粉ミルクの無い時はかう云ふ方法で拵へて、これを牛乳一合と見て月數に應じて稀釋すればよいのです。さうすれば牛乳と同じ事になります。さうして離乳期に馴らして行くのです。

離乳期には又よく便秘しやすいものですが、さう云ふ時どうしたらよいかと云へば、京都には粟飴がありますから

これを使ひます。粟飴は離乳期の栄養となり便秘にもよく  
きゝます。ビオスモールや、和光堂のマルツエキスを買は  
なくても水飴一匙とウドン粉二匙を練つてやれば便通もよ  
くなり體重も殖えます。便秘兼離乳の栄養劑となります。

次に果物の汁を小さな子供に飲ます事は田舎のどこでも  
やつて居ります。が煮てやると云ふ事は日本の家庭に未だ  
しみ込んで居りません。天然のまゝたべさして悪いものは  
煮てやればよろしい。大人も果物を煮て戴かなければなり  
ません。野菜を煮ると同様生で悪ければ煮てたべま  
す。カルシウムの成分はありませんが果物には葡萄糖の成  
分が入つて居ります。離乳期の子供に非常に必要なのは葡  
萄糖の成分であります。この葡萄糖の成分が少なくと發育  
が悪いのです。砂糖ばかりではいけないので、葡萄糖が赤  
ん坊の成長を助けます。この離乳期によい果物は林檎であ  
ります。林檎は腸の薬であります。梨は胃の薬であります  
が、腸に害のないものとして林檎がよいのであります。そ  
の分量は百瓦の林檎と云へば中位の林檎ですがそれ一個に  
對して砂糖三杯を入れてよく煮て、後で片栗粉一匙をよく  
溶して先の林檎にかけるとジヤムの様なものが出来たす。

それから林檎の皮だけに水一合入れて三十分煮て裏漉した  
ものに片栗粉一匙、砂糖一匙を溶かしてもう一べん煮ると  
林檎の汁のゼリーが出来ます。これを離乳期の子供に一匙  
づゝやつて居ります。又林檎の中にある種は咳の薬になり  
ますから皮と種とに澤山水を入れて煮ます。そしてその汁  
に片栗粉を入れてどろつとして飲まします。かう云ふ事を  
して戴きたい。

何が離乳期に一番必要であるかと云へば、骨格を構成す  
る處のカルシウムのあるものを攝らなければなりません。  
それには小骨のあるものを攝つて行かなければなりません。  
せし。ちりめん雑魚、煮干等の安價なもので養分の多いも  
のをやります。それから鐵の成分が少なくなります。肝臟  
にある鐵分は七ヶ月、八ヶ月で使ひ果してしまひますか  
ら、それには卵の黄味をやります。卵黄は消化しやすいで  
すから之を半熟にして半匙位からやります。それから裏漉  
にしたほうれん草を乳粥の中に入れてたり野菜スープを取つ  
た中へ一緒に入れてどろつとしてやります。  
それから燐は神経中樞機關即ち腦の爲に必要なものであ  
り、骨の爲にも必要であります。燐が足りない骨の發育

に影響します何に一番澤山あるかと云へば骨の中にあるま  
すが、まさか牛の骨をしやぶる譯には行きませんから、煮  
干から取ります。或ひはちりめん雑魚をから煮して粉にし  
たものを粥の中に入れてやるのであります。鍋の中にも澤  
山燐が入つて居ります。骨の無い魚の中には蝦、蛸の中にも  
あります。植物性の中では玉葱の中にあります。だ  
から野菜スープの中に玉葱を入れて置いで飲まします。

海藻類や骨のあるもの、野菜類、果實等をあしらつて少  
量づゝやつて参りますと段々馴れて來ます。丁度植木屋さ  
んと同じ事でありまして段々に馴れて行き分量を増して行  
けば失敗しません。

味噌汁がよいと云ふのは味噌は大豆と麥から出來て居り  
ます。大豆には固有の植物性の蛋白質がありますから魚を  
たべなくても蛋白質がある譯ですがこれは植物性でありま  
すから成分が低いですから早く吸収されやすいです。黄粉  
や大豆のスープを與へるとよろしい。又病院では離乳期に  
ダクターエリー、豆乳を使つて居ります。之を外國の醫者  
が宣傳して居りますのに肝心の日本人が使ひません。之  
には大豆の中の蛋白質が澤山含まれて居ります。薄い味噌

汁を少量づゝ飲まして行く事が必要であります。そして麥  
は御承知の様にビタミン、があつて我々の身體に無くて  
ならんものであります。味噌粥と云ふものを作つてやり  
ます。米の中に味噌汁を数滴落してそれを煮たもの、味噌  
粥を少量づゝ與へてやります。之が離乳期に一番大切であ  
ります。

要するに日本の氣候風土を考へて、それから全てを應用  
して戴きたいと思ひます。

これで大體乳幼児の保護に就てはお話申上げましたが、  
まだ栄養の事成分の事に就て詳しくお話したいですが時間  
がありませんから次のマツサージの(分娩前の乳房の保護  
と云ふ事に就て)實習の際に説明したいと思ひます。  
私の話は平易でありふれたものであります。御参考の  
一つとなりましたら大變結構であります。私が先程から度  
々申し述べました氣候、風土歴史の跡と云ふ事をよく考へ  
て餘り外國かぶれをしない様に、子供の母が外國のもので  
あれば何でもよいと思ひ外國の眞似ばかりしない様に御指  
導を御願ひしたいと思ひます。

(終り)

342  
1273

昭和十二年一月三十日印刷  
昭和十二年二月五日發行

【非賣品】

京都市上京區下長者町西洞院西入

編輯者

筒井節

京都市下京區北小路通新町西入

印刷者

須磨勘兵衛

京都市下京區西洞院通七條南入

印刷所

内外出版印刷株式會社

京都市御前通丸太町下ル

發行所

京都府產婆會

終